

学習支援センター(SLAサポート) 年次活動報告書 2021年度

Annual Report 2021 / Center for Learning Support(SLA Support Office)

C

L

S

L

A

東北大学
高度教養教育・学生支援機構
Institute for Excellence in Higher Education,
Tohoku University

学習支援センター（SLA サポート）
年次活動報告書
2021年度

わが背丈以上

—学習支援センターの意義—

学習支援センター長 芳賀 満

わが^{せたい}背丈以上は空や^{はつひばり}初雲雀

中村草田男

「初雲雀」が季語で春の句である。自分の背丈より上は空だ、そのことを見つけて嬉しく、そう言い切る気持ちよさ。その自分の先の空高くに、勢いよく舞い揚がってゆく今年初めての春の雲雀は、その晴れやかな心そのものか。

「身の丈」と言うと縮こまり詰まる思いがするが、この単純な「背丈」という平明な言葉には逆に上昇感がある。その「背丈」にさらに「わが」と付く。句のこの初語では、いったんはこの句の対象が「わが」ことのみ限定されるのかと感じる。しかし「以上」と続き、たちまちにその逆であることがわかる。つまり普通、「空」は手の届かない遙かに上の天空空間のみを指すが、ここでは野原に立った自分の「わが背丈」の先端を含んでそこから既に「空」が始まり、そのまま頭上はるかに高く伸び広がる。高い声で囀りながらその空に飛び揚がる初雲雀を仰け反って見遣るとき、自分の背筋が上に伸びる気持ち良さ、心身の開放感。だから「空」も、「くう」などと辛気くさく読まずに「そら」と普通に読み、だから春の野原の草の匂いまでしてくる。地球の丸みも感じるほどの広い野原である。

同じ春の空に揚がる雲雀としては、「うらうらに照れる春日にひばりあがり心かなしもひとりし思へば」(大伴家持『万葉集』)が有名であるが、この俯いた独居沈思のメランコリーを意識した上でおそらく敢えて逆に、草田男の俳句は真っ直ぐな春の生命讃歌である。「わが背丈」、「以上」、「空」、「初」、「雲雀」、この句を構成する全ての言葉においてベクトルが上を指向している。

学習支援センターで勉学に励む学生たちをみると、いつもこの句を思い出す。学習支援センターというこの春の野原から共に空に羽ばたいて欲しい。そのための活動の今年度の報告書である。ご一読いただければ幸いです。

目次

巻頭言 わが背丈以上—学習支援センターの意義— センター長 芳賀満	1
◆2021年度事業内容・成果	4
1. センター概要	6
2. センター活動・実績報告	10
3. 研修実績報告	22
1) 活動説明会 (23)	
2) 活動報告会 (44)	
3) 北海道大学との合同研修の実施 (55)	
4. 部会活動報告	57
1) 物理部会 (57)	
2) 数学部会 (64)	
3) 化学部会 (70)	
4) ライティング部会 (75)	
5) 英語部会 (86)	
6) 日本語部会 (95)	
7) 企画部会 (103)	
5. SLA 卒業プレゼンテーション	116
資料：2021年度発行ポスター	123
編集後記	132

◆2021年度事業内容・成果

1. スチューデント・ラーニング・アドバイザー（SLA）制度の運用を基盤とした学習支援の開発・実施

SLA (Student Learning Adviser) とは本学学生による学生のための学習支援スタッフである。学部生の授業時間外の教科学修や英語学習、留学生の日本語学習、及び学際的なテーマに関する協同学習実践への支援を行っている。2021年度のSLA数は、前期47名、後期は44名であった。うち当該年度中に新規採用したSLAは計18名である。

このSLAによる学習支援は、①理系科目の学習支援、②ライティング支援、③英会話、④日本語会話学習支援、⑤学習イベント企画、⑥学習情報発信・広報活動という6つに大きく分けられる。2020年度以降は、新型コロナウイルス感染拡大により、Web会議システムとGoogle Workspace for Educationを活用しながら、感染拡大収束期に對面も併用する形で、SLAサポート窓口支援の活動を行った。昨年度以降、多くの相談がオンラインで実施され、かつ事前予約制となった点は2019年度以前と異なるが、当該年度はオンラインによる支援にも慣れ、様々な工夫を凝らしながら体制整備を進めることができた。

結果、2021年度の全体の利用者数は延べ1,670名、1活動日あたりの利用者数は12.8名であった。

①理系科目支援

2021年度は、昨年度と比較すると利用者数が増加し、特に数学の相談対応件数が多かった。理系科目全体では、2021年度の利用者数が延べ508名、実数では194名であった。昨年度比での傾向としては、相談内容の幅が広がった。当該科目の学修の初歩でつまづいている学生から発展的な内容の学修を自発的に進めている学生の相談まで、多様な内容での相談があった。個別相談以外にも、積極的な情報発信を行った。物理担当SLAにより、実験レポートの書き方を学ぶワークショップを開発・実施した。実施後にはGoogle classroomを活用し、その内容をオンデマンド教材（全3回）として学生に公開した。

②ライティング支援

年間を通してオンライン支援のみで活動した。ライティング支援の2021年度の窓口利用者は、延べ182名、実数で99名であった。前期は国内学生（主に学部1年生）の利用が多く、後期は留学生による日本語チェックを中心とした利用が多数を占めた。留学生利用者数は延べ73名だった。昨年度と比べると、国内学生（学部1～2年生）の利用が大きく増加した。

例年実施してきたセミナー「レポート指南書入門ゼミ」については、セミナーとしては実施せず、専用のGoogle classroomを作成し、classroomのクラスコードを学生に周知する形で、オンデマンド教材（全5回）として学生に公開した。前期中、当該classroomには約340名の登録があった。

③英会話

SLAサポート窓口をオンライン化したことにより、2019年度以前は「英会話カフェ」を中心とした活動だったが、2020年度以降は「1 on 1」（個別対応）を中心としつつ、不定期に交流イベントを実施する形での活動となった。2021年度の英会話支援の利用者数は延べ503名、実数129名だった。延べ数では昨年度より増加し、実数では昨年度と同数となった。オンライン化以降、高年次学生や大学院生（留学生含む）等、川内キャンパス以外に通う学生の利用が増加した。相談内容の傾向としては、TOEFLや英検などの試験対策の相談が増加した。

④日本語会話（留学生対象）

年間を通してオンライン支援のみで活動した。2020年度の日本語支援の利用者数は延べ228名、実数75名だった。利用者数で見ると昨年度比で減少しているが、担当SLAの減員により予約枠が3割ほど減ったためであり、予約枠は常時埋まっているような状況だった。利用者としては中国の留学生を中心としつつも、多様な地域・国の留学生の利用があった。所属学部・研究科や学年は多様で、多くが複数回利用となっている。海外からの利用（新型コロナウイルス感染拡大防止措置により未だ日本に入国できない留学生等）も相当数あった。留学生と国内学生の交流促進を目的とした「SLA文化カフェ」（90分）や、日本語に関する知識のインプットを支援するための「日本語ミニワークショップ」（30分）も複数回開催した。

⑤学習イベント企画

2021年度は、哲学カフェ「かんがえるソファ」(哲学カフェ)開催を中心として活動を行った(平日の5限の時間帯を中心に各回90分で実施)。当該年度は、時事的なテーマを取り上げて参加者間で対話を行う「かんがえるソファ+ (プラス)」や、対話ではなく討議やディベートを行うことを目的とした「かんがえるソファD」という、新しいタイプのワークショップも開発・実施した。

⑥学習情報の発信および広報活動

2022年度の学部新生に配布予定の『SLA SUPPORT GUIDE BOOK 2021』を作成した。この冊子では、学習支援センターの利用案内や、大学で学ぶ上で役立つヒント等を紹介している。また、昨年度に新規作成した、留学生向けの『SLA SUPPORT GUIDE BOOK 2021 for international students』の改訂を行い、内容を充実させることができた。

2. 学習支援の組織開発および支援者育成システムの開発・実践

2021年度は、前年度に引き続き、SLA研修の大半をオンラインで実施した。全てのSLAを対象として、各セメスターの始期に活動説明会、終期に全体リフレクション会や活動報告会を開催した。これらの活動により期間を通じたSLAサポート活動の目標の共有と、その目標に対する成果・課題のふりかえりを行った。セメスター中にはSLAの担当分野別に「部会」(担当別研修会)を実施し、担当科目等に関する学習支援の課題の共有と対応の検討等を行った。その他にも、セメスター末には全SLAに対してアンケートやヒアリングを実施した。そのデータや日頃の教職員による観察から得た情報に基づいて課題を抽出し、個別課題に応じた育成方針をセンター教職員で検討し、全体課題の精査を行った。理系科目担当SLAには、2月21日に北海道大学と、学習支援に従事する学生スタッフの合同研修をオンラインで実施した(詳細は後述)。

2021年度中は、外部の講師を招聘しての研修会やセミナーは開催しなかった。ただ、昨年度に実施したSLA研修「留学生が間違えやすい日本語と学習支援」(講師：関西国際大学の伊藤創先生、ご専門は日本語教育・言語学)の収録講義内容をSLAのためのオンデマンド教材として活用することができ、大変有意義であった。

3. 情報還元による正課カリキュラムの改善・充実への貢献

半期ごとに、学務審議会においてセンターの利用状況・活動報告を行った。また、正課カリキュラムと学習支援センターでの活動を有機的に連携させるため、TGLプログラム「グローバルゼミ」に対して、レポートの書き方についての出前授業1コマ(90分)を実施した(センター教員が担当、前期4クラス、後期2クラス)。今年度は、昨年度に作成していたライティングに関するオンデマンド教材を改訂し、内容をより一層充実させることができた。その他、化学については、SLA窓口の利用実態(相談内容や件数等)について、個人情報に配慮したうえで、科目委員会にフィードバックした。

4. 正課カリキュラム外における学生の自主的な学習支援の支援・促進

学生の学習意欲の向上や教養への興味喚起、正課カリキュラム外での学習活動推進を図るため、SLAによる学習支援活動を中心に様々な学習企画や学習支援活動を実施した。今年度も、昨年度から引き続き、ほとんどがオンラインでの実施となった。哲学カフェ「かんがえるソファ」は、平日(曜日は不定)の5限の時間帯を中心に、各回90分、オンライン(Zoom利用)にて定期開催した。2021年度は特に「多様な人同士がつながる場をつくり、ラーニングコミュニティの形成を戦略的に促進」することをセンターの重点目標に掲げていたため、留学生のための新規企画として、国内学生との交流を促進するための「SLA文化カフェ」を開発・実施した。

5. 学内外における学習支援ネットワークの構築

留学生等への学習支援に関する情報交換や広報等において、グローバルラーニングセンターとの効果的な連携を継続できた。学外との学習支援ネットワークとしては、昨年度に引き続き、2月に北海道大学との合同研修を実施した。今年度はオンライン実施とし、SLA4名、北海道大学TA3名が参加した。理系科目支援に関するSLAと北海道大学TAとの情報共有や意見交換および交流を図った。

1. センター概要

学習支援センターは、2014年度の高度教養教育・学生支援機構の発足に伴い設立された業務センターの一つである。その前身となったのは、高等教育開発推進センターにおける「SLA サポート室」の活動（2013年度）であり、さらにはそれ以前の「全学教育学習支援プロジェクト—SLA（Student Learning Adviser）制度の実践—」（総長室付け、2010年度～2012年度）の活動が土台となっている。

2019年度6月、「学習支援センター運営要領」を一部改訂した。

（1）理念・使命

学習支援センターの使命には、次の3点を掲げている。

- (1) 学生の主体的・自律的な学習を実践的に支援・促進し、研究大学で学ぶ学生が習得すべきコンピテンシーを育成する。
- (2) 初年次教育や学習支援に関する国内外の動向を調査研究し、大学における学習支援の質的向上に寄与する。
- (3) 教職員・学生の間「学び合い」文化を醸成し、学習共同体（ラーニング・コミュニティ）の形成に寄与する。

学習支援センターの支援対象は主に学部生を対象とした全学教育（教養教育）である。特に1・2年次学生にとっては、高校教育から大学教育への移行において「学びの転換」が課題となっており、その転換を実践的に支援・促進するのが本センターの重要な役割の1つである。

本センターの学習支援の特徴は、学習支援活動の主な担い手が「SLA（Student Learning Adviser）」と呼ばれる学生スタッフであることにある。「学生による学生のための学習支援」の在り方を模索し、開発していくことも本センターの使命の一つである。

（2）事業

学習支援センターが行う事業は、次の4点である。

- (1) スチューデント・ラーニング・アドバイザー（SLA, Student Learning Adviser）制度の運用を基盤とした学習支援の開発・実施
- (2) 正課カリキュラムの改善・充実への貢献および全学教育に対する教育開発支援
- (3) 正課カリキュラム外における学生の自主的な学習の支援・促進
- (4) 学内外における学習支援ネットワークの構築

本センターでは、高大接続の円滑化と大学教育での「学びの転換」、そして「単位制度の実質化」に対応するため、大学初期段階での学びのスタートアップ支援を行う。研究大学における学習支援としては「リメディアル教育」に資する支援を行うと同時に、学生が学修を深化させ、あるいはより幅広い学習へと拡張していくための「レベルアップ」のための支援を開発・実施していく。

(3) センタースタッフ構成 (2021 年度)

センター長 芳賀 満 高度教養教育・学生支援機構 教授, 考古学
 副センター長 佐藤智子 同 准教授, 生涯学習・社会教育
 センター員 縣 拓充 同 助教, 教育心理学・認知科学・美術教育
 中島啓貴 同 助教, 数学・幾何学
 堀越徳子 教育・学生支援部 教務課, 事務補佐員

SLA

前期 47 名, 後期 44 名 (下表のとおり)

2021 年度 SLA 一覧

	担当	名前	所属	学年	活動開始	備考
1	物理	木下 豊	理	M 2	2021 年前期～	
2		松井 理輝	理	M 1	2019 年前期～	
3		狩生 宏喜	理	M 1	2020 年前期～	
4		鈴木 善久	理	M 1	2020 年前期～	
5		安田 陸人	理	M 1	2020 年前期～	
6		中村 牧人	理	M 1	2020 年後期～	
7		本間 飛鳥	理	M 1	2021 年後期～	
8		中村 悠斗	工	B 4	2020 年前期～	
9		菅野 翼	理	B 3	2021 年後期～	
10	数学	吉澤 研介	理	D 3	2019 年前期～	
11		森 祥仁	理	D 2	2021 年前期～	
12		木村 藍貴	理	D 2	2020 年前期～	
13		佐藤 俊	情	M 2	2018 年前期～	
14		竹平 航平	理	M 2	2019 年前期～	
15		松本 悠太	情	M 1	2020 年後期～	
16		守屋 鳳人マイケル	理	B 4	2021 年前期～	
17		小林 岳暉	理	B 4	2021 年前期～	
18		吉野 舜太郎	工	B 4	2021 年後期～	
19	化学	三上 進一	理	D 3	2017 年前期～	
20		中村 祐輝	環	M 2	2018 年後期～	
21		中島 優斗	理	M 1	2021 年後期～	
22		千葉 湧太	理	B 4	2020 年前期～	
23		三上 翠跳	理	B 4	2020 年前期～	
24	ライティング	伊藤 愛莉	教	D 3	2019 年前期～	
25		中野 惟文	文	D 3	2020 年後期～	
26		相原 貴次	文	D 2	2019 年前期～	

27		保泉 空	文	D 1	2021 年前期～		
28		増田 友哉	文	D 1	2021 年前期～		
29		服部 祥英	工	M 2	2020 年後期～		
30	英語	田村 惇	文	D 2	2019 年後期～		
31		金 弋	工	M 2	2019 年後期～		
32		水野 彩子	薬	M 2	2018 年前期～		
33		千葉 絵理奈	工	M 2	2019 年前期～		
34		森坂 太一	教	M 1	2020 年後期～		
35		ジャン シンユイ	国	M 1	2021 年前期～		
36		森岡 駿	経	M 1	2021 年前期～		
37		榎島 千仁	文	M 1	2021 年後期～		
38		近森 藍璃	文	M 1	2021 年後期～		
39		氏原 幸太	工	B 3	2021 年前期～		
40		日本語	鏡 耀子	文	D 2	2018 年後期～	
41			松谷 凌雅	文	M 1	2019 年前期～	
42			江村 玲	文	M 1	2020 年後期～	
43	小川 晴生		経	M 1	2020 年後期～		
44	秋山 千皓		農	M 1	2021 年前期～		
45	企画	西塚 孝平	教	D 2	2018 年前期～		
46		高野 晴来	工	M 2	2020 年後期～		
47		飯田 司	理	M 1	2019 年前期～		
48		加茂野 優	国	M 1	2021 年前期～		
49		須田 華	工	B 4	2020 年前期～		
50		渡辺 楓	理	B 4	2020 年前期～		
51		渡邊 早紀	工	B 4	2021 年前期～		
52		福士 海伊	工	B 4	2021 年後期～		
53		加藤 嵩大	農	B 3	2021 年前期～		



写真:個別相談(理系科目)の様子

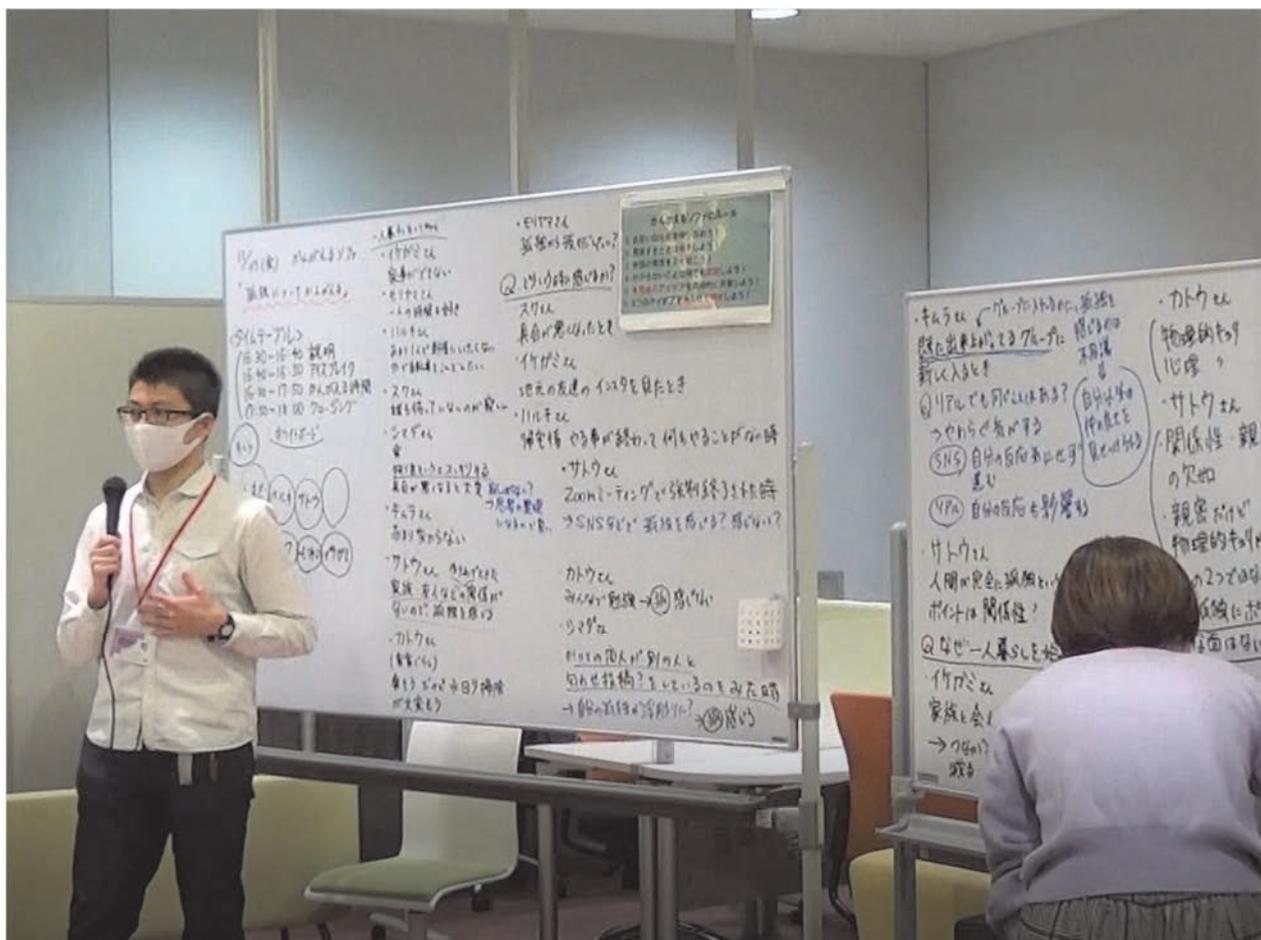


写真:「かんがえるソファ」対面開催の様子

2. センター活動・実績報告

2021年度 学習支援センター活動報告

◆SLAの体制: 前期**47名**(新規12名)、後期**44名**(新規6名)

内訳	物理	数学	化学	ライティング	英会話	日本語	企画
前期	7	8	5	6	8	5	8
後期	8	8	5	6	7	4	6

◆年間総利用者数延べ数): **1,670人** 1日平均: **12.8人**

	2021年		2020年	
	利用者数	予約充足率 ／開催回数	利用者数	予約充足率 ／開催回数
理系科目[窓口利用]	508	39.9%	460	36.1%
英会話[1on1]	503	78.8%	435	71.6%
ライティング[窓口利用]	182	52.6%	89	50.9%
日本語[1on1]	228	76.8%	260	74.1%
日本語[ワークショップ]	121	11回	-	-
企画[哲学カフェなど]	115	23回	173	23回

2021年度重点目標とその概要

① 「学びの転換」と自律的な学習態度の形成を、多方面から支援

- Web会議システムとGoogle Workplaceを活用したSLAサポート窓口支援の運用、学習支援の質の維持向上
- 積極的な学習情報発信
 - Twitter(@sla_tomosodachi) フォロワー数 1,615名(3/15現在)
 - 講義棟やM棟内でのポスターやチラシ掲示(SLA推薦図書など)

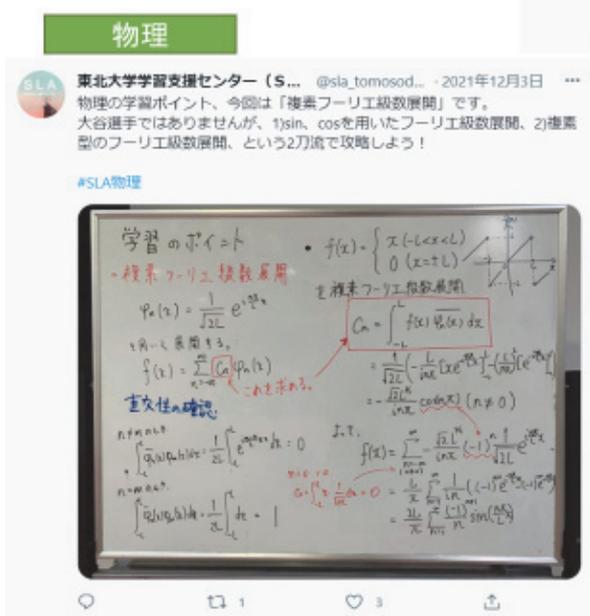
② 多様な人同士がつながる場をつくり、ラーニングコミュニティの形成を戦略的に促進

- 学生間の交流と協同的な学習を促すワークショップ開催
 - 哲学カフェ「かんがえるソファ」の定期開催(企画SLA)
 - Twitterによる学習情報発信(理系SLA, 英会話SLAなど)
 - 「SLA文化カフェ～日本語で話そう! 世界のこと・日本のこと～」開催(日本語SLA)

【2021年度】理系科目

- **窓口**: 昨年度と比較し利用者実数は増加
 - ・ 数学・化学の利用が増加
 - ・ 物理に関連する科目の利用は減少
 - ・ 授業TAに質問しやすい科目はSLAの利用が減少?
- **窓口以外の支援**: 学生が窓口に来なくても利用できる学習支援を継続
 - ・ 主に1年生に向け、教科の学びに関わる情報をセンターHPやTwitterで発信
 - ・ 実験レポートの書き方ワークショップを開催
 - ・ 物理担当のSLAが、実験系のレポートの書き方を教えるワークショップ。オンラインでのイベント開催 & 収録動画をオンデマンド教材としても発信

Twitterでの発信



【2021年度】ライティング

- 前期は初年次学生、後期は留学生の利用が中心
 - ・利用(延数):前期115名/後期67名、計182名(実数99名)
 - ・初年次学生利用者の二極化(入門レベル⇄上級レベル)
 - ・留学生の日本語チェック利用は、昨年度と同水準(留学生利用:延べ数73名)
- オンデマンド型教材: classroom を利用
 - ・「レポート作成入門ゼミ」のオンデマンド教材+不定期コラム
 - ・登録者 前期:約340名、後期:約60名(後期は一般広報せず)
- 授業連携型支援:TGLプログラムとの連携
 - ・前年度に引き続き、TGLプログラム「グローバルゼミ」に対し、レポートの書き方に関する出前授業1コマ(90分)を実施
 - ・センター教員が担当
 - ・前期4クラス、後期2クラス

【2021年度】英会話

- 窓口:高年次学生の利用者増
 - ・オンラインのみ、1対1の支援に特化して実施
 - ・より多様な所属・学年の学生の利用が増加
 - ・大学院生や留学生など
 - ・TOEFL、英検など、試験対策の相談が増加
- イベント:「SLA英会話体験week」をオンラインで開催
 - ・前期:SLAによる模擬対応を見てもらい、英語で交流するオンラインイベントを実施。計3回(6/14, 17, 22)で、参加者は計33名→約4分の1の参加者が、このイベントへの参加をきっかけに1on1セッションを利用
 - ・後期:「英会話体験week」「New Year's Party」「春の合同自主トレ」などの交流イベント開催(参加者計60名)

【2021年度】日本語会話

●紹介動画を作成

- <https://youtu.be/4lwvhbcEPnl>
- 作成後に十分に活用できなかった点が課題

●窓口:オンラインでの1on1セッション

- 中～上級(日本語だけで会話できる)の利用者中心
- 中国語圏出身者(中国滞在留学生の利用も)が多いが、多様な国・地域の留学生が利用
- 所属学部・研究科は多様、高いリピーター率
- 日本語の上達だけでなく、交流目的で利用するケースあり
→研究室に日本人学生がいない
日本人学生がいても、研究関連以外の会話がない

●新たなワークショップを企画・実施

- SLA文化カフェ＝国内学生と留学生が1対1で会話をするセッション(20分×2回)
- ミニワークショップ開催:オノマトペや数の数え方など(30分/回)

【2021年度】定期開催イベント

●「かんがえるソファ」

- 普段「当たり前」だと思っているような何気ないことについて、学生同士で考え対話する企画
- 平日の16:30～18:00に開催(各回90分)、各回定員8名
- 通常の「かんがえるソファ」19回開催
- 新企画「かんがえるソファ+」(2回)、「かんがえるソファD」(2回)も開催
- 多様な学部・研究科、学年の学生が参加、リピーター多数
- 参加者:学部1年生の参加が大半を占める
＝授業連携の影響、後期は対面実施だったためアクセスの問題も

【2021年度】SLAガイドブック2022発行

●『SLA SUPPORT GUIDE BOOK 2022』

- 学習支援センターの利用案内、大学で学ぶ上で役立つヒント等を紹介
- 国内学生向けは、冊子を全学部1学生に配布
- 2021版では留学生向けのみにあった「宮城・仙台ガイド」を国内学生向けに追加
- 化学の「学びのヒントbySLA」ページを充実化(1p → 4p)
- 留学生向け『SLA SUPPORT GUIDE BOOK 2022 for international students』も作成。こちらは冊子として印刷せず、オンラインガイドブックとして作成。



02 SLAサポートについて知ろう

03 SLAサポートとは？

05 各種サポートの紹介

- 理系科目サポート
- 英会話サポート
- ライティングサポート
- 留学生向けサポート
- 個別対応支援の利用方法
- 学習イベント
- 自主ゼミサポート

20 SLAラウンジについて

22 「大学で学ぶ」ってどういうこと？

24 大学で変わる「学び方」

26 仲間との「学び合い」のすすめ

28 学びのヒント by SLA

1. レポート・ライティング
2. 英会話
3. 数学
4. 物理
5. 化学

48 知られざる魅力がいっぱい！ 宮城・仙台ガイド

58 SLAからのメッセージ

学習支援センター(SLA サポート)2021 年度活動報告(詳細版)

1. 2021 年度 SLA サポート事業重点目標とその成果

① 「学びの転換」と自律的な学習態度の形成を、多方面から支援

- ・ 昨年より学習支援のオンライン化を進めてきたが、今年度はその体制も整い、安定的にオンラインでの支援を提供できた。また、一部、対面支援での活動も行うことができた。
- ・ 学習支援としての質の維持・向上に意識的に取り組み、利用者からの高い満足度を得られた。

② 多様な人同士がつながる場をつくり、ラーニングコミュニティの形成を戦略的に促進

- ・ 学生同士の交流を促進し、学習を核としたコミュニティの形成に取り組むことができた。
- ・ 具体的には、日本語 SLA により、国内学生と留学生の文化的・社会的な交流をはかる「文化カフェ」など、新しいイベントを定期開催した。同時に、既存のイベントや相談対応においても学生同士のつながりづくりを意識した対応を促してきた。

2. 2021 年度 SLA サポート利用状況・活動報告

1)2021 年度 SLA サポート利用数

【前期】全利用者数：延べ 908 人、活動日数：69 日（1 活動日当たり 13.2 人）

【後期】全利用者数：延べ 762 人、活動日数：61 日（1 活動日当たり 12.5 人）

【年間】全利用者数：延べ 1,670 人、活動日数：130 日（1 活動日当たり 12.8 人）

SLA 数：前期 47 人（新規 12 人）、後期 44 人（新規 6 人）

2)理系科目支援：オンラインでの支援を行った昨年と類似した利用傾向、昨年度よりやや増実施形態：1 対 1 での個別対応型支援

- ・ BCP レベルが 2 以上の場合はオンライン、レベル 1 の場合は対面での支援。前期は全てオンライン、後期は基本的には対面実施。ただし後期の最後の 2 週間はオンライン実施。
- ・ オンラインでは事前予約制、対面では drop in 方式を採用。
- ・ 1セッション原則 45 分。次の枠に予約が入っていなければ延長して対応。

利用傾向：科目別の利用傾向が変化

- ・ 全体としては、昨年度と比較し利用者実数・延数ともに増加。
- ・ 科目別では昨年度と比較し、数学・化学の利用増加。物理学の利用減少。
- ・ 昨年度よりも利用学生の幅が広がった印象。昨年度は中間層の利用が大部分であり、中間層以外の学生、すなわち学習の初歩でつまづいている学生や逆に進んだ話題を学習している学生がかなり少なかった。しかし今年度はそのような中間層以外の学生の利用が比較的多く見受けられた。
- ・ 留学生による利用も複数件あり（留学生利用：延べ数 16 名）。

窓口以外の支援：学生が窓口に来なくても利用できる学習支援を継続

- ・ 主に 1 年生に向け、教科の学びに関わる情報をオンラインと大学構内ともに発信した。大学構内では、講義棟内でのポスターやマルチメディア棟前にホワイトボードによる発信を行った。また学生食堂内での掲示は今回が初の試みである。昨年同様、オンラインではセンター HP や Twitter での発信も行った。

理系・実験レポートの書き方ワークショップ

- 物理担当の SLA が、実験系のレポートの書き方を学ぶ全 3 回のワーク型の教材を開発。オンラインでのイベント開催を行うと同時に、オンデマンド教材としても発信（全 3 回の動画）。イベント参加者は計 12 名、classroom 登録者は約 100 名。

＜表 1. 2017～2021 年度利用者数等変遷 理系＞

	2017	2018	2019	2020	2021
前期(延べ)	468	441	625	259	248
後期(延べ)	332	288	386	201	260
合計(延べ)	800	729	1,011	460	508
予約枠数	-	-	-	1275	759
予約枠充足率	-	-	-	36.1%	39.9%
合計(実数)	240	224	257	160	194
開設コマ数	68	52	59	50	-

＜表 2. 2017～2021 年度 科目群別利用者数変遷 理系＞

科目群(授業)名	2017	2018	2019	2020	2021
物理	247	138	271	153	112
数学	285	349	436	203	261
化学	82	98	112	48	60
自然科学総合実験	21	52	45	20	24
数学物理学演習	155	90	136	30	36

3)ライティング支援:初年次学生・留学生のライティング利用の定着

実施形態：1対1での個別対応（窓口支援）

- 1セッション 45 分（2020 年度後期は 60 分で実施していたが 2021 年度前期は短縮）
- レポートの添削には Google Document のコメント機能を利用

利用傾向：前年度比で利用者増

- 前年度比では、主に前期において、初年次学生の利用が大きく増加（Gゼミやセンター教員担当授業（前期）を通じた広報の効果も一部あり）
- 初年次学生利用者の二極化（まったくの初学者／ライティングの授業でしっかりと基礎を習得した上でレポートを書いている高度な水準の利用）
- 留学生の日本語チェック利用は、昨年度と同水準（留学生利用：延べ数 73 名）

セミナー開催：今年度も「『東北大学レポート指南書』入門ゼミ」ワークショップは実施せず

- ワークショップ開催中止の代替として「レポート作成入門ゼミ」の名称でオンデマンド教材化して classroom 上で学生に共有。
- 来年度以降は、感染状況を見つつ、対面実施を検討する。

授業連携型支援：出前授業を実施

- 引き続き、TGL プログラム「グローバルゼミ」に対して、レポートの書き方についての出前授業 1 コマ（90 分）を実施（センター教員が担当、前期 4 クラス、後期 2 クラス）。今年度も前年同様に、事前課題としてオンデマンド教材も提供し、ライティング教育の充実化に貢献できた。

＜表 3. 2017～2021 年度利用者数変遷 ライティング＞

A. 個別対応(窓口)

	2017	2018	2019	2020	2021
前期(延べ)	68	31	146	42	115
後期(延べ)	35	21	78	47	67
合計(延べ)	103	52	224	89	182
予約枠数	-	-	-	175	346
予約枠充足率	-	-	-	50.9%	52.6%
合計(実数)	70	37	111	34	99
窓口型:開設コマ数 ／イベント型:開催回数	14	10	12	8	-

B. セミナー開催

	2017	2018	2019	2020	2021
	84	262	202	-	-
	4	-	14	-	-
	88	262	216	-	-
	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-
	47	30	19	-	-

4) 英会話支援:オンライン化に伴い、高年次学生の利用者増

実施形態:1対1での個別対応型支援(1on1)に特化して実施

- 1セッション30分・事前予約制、全てオンラインによる対応
- 新規利用者獲得・利用促進および利用者同士の交流のため、不定期に複数人参加型のイベント「SLA 英会話体験 week」「END-OF-YEAR 英会話 CAFE」をオンライン開催。合計44名が参加。
- 休み期間中の継続を希望する声が多かったことから、2月中に延長して実施。

利用傾向

- 利用者延数・実数とも、ここ5年間で最多。高いリピーター率。
- 留学生の利用も多数(延べ数86名)。
- 一昨年度までは川内キャンパスに通う1・2年生の利用がほとんどであったが、オンラインでの対応となった昨年度より大学院生の利用者が増加。より多様な所属・学年の学生が利用するように
- TOEFL、英検など、試験対策の相談が増加。

＜表 4. 2017～2021 年度利用者数変遷 英会話＞

	2017	2018	2019	2020	2021
前期(延べ)	306	242	232	164	276
後期(延べ)	180	247	217	271	227
合計(延べ)	486	489	449	435	503
予約枠数	-	-	-	524	582
予約枠充足率	-	-	-	71.6%	78.8%
合計(実数)	110	73	91	129	129
開設コマ数	30	18	18	18	-

※ 2021 前期延数には「英会話体験 week」の33名と後期延数には「END-OF-YEAR 英会話 CAFE」の11名が加算されている。

※ 2020 後期延数には「英会話体験 week」「New Year's Party」「春の合同自主トレ」の 60 名が加算されている。

※ イベントの人数は、実数及び予約枠充足率には加算されていない。

5) 留学生向け日本語会話支援:オンラインによる 1on1 支援に加え、イベントも定期開催

実施形態: 1 対 1 での個別対応型支援を中心として、定期的にイベント開催

- 1セッション 30 分・事前予約制、全てオンラインによる対応
- イベントは事前申し込み制、Zoom を利用したオンライン開催。

利用傾向

- 広報用に、日本語会話の紹介動画を作成 (<https://youtu.be/4lwvhbcEPnl>)
- 日本語能力の中上級者(日本語だけで会話できる、N1~2 レベル)の利用が中心。
- 利用者の出身は中国が多いが、多様な国・地域出身の留学生が利用・参加。
- 所属学部・研究科は多様。高いリピーター率。

イベント

- SLA 文化カフェ (1 回 90 分) を定期開催。国内学生と留学生の交流促進を目的としたイベント。
- 日本語ミニワークショップ (1 回 30 分) を実施。テーマとしては、オノマトペや数え方など。

＜表 5. 2018~2021 年度利用者数変遷 日本語会話＞

A. 個別対応型支援(窓口型)

B. 企画発信型支援(イベント型)

	2018	2019	2020	2021	2018	2019	2020	2021
前期(延べ)	-	-	109	116	21	99	-	70
後期(延べ)	-	-	180	112	34	144	-	51
合計(延べ)	-	-	289	228	55	243	-	121
予約枠数	-	-	390	319	-	-	-	-
予約枠充足率	-	-	74.1%	71.5%	-	-	-	-
合計(実数)	-	-	111	75	20	50	-	-
窓口型:開設コマ数 / イベント型:開催回数	-	-	10	-	30	57	-	11

6) 学習企画・イベント:学習イベントの拡大・定期実施

「かんがえるソファ」(哲学カフェ)

- 普段「当たり前」だと思っているような何気ないことについて、学生同士で考え対話する企画。
- 平日(曜日は不定)の 5 限の時間帯を中心に開催(各回 90 分)。
- 「かんがえるソファ+(プラス)」や「かんがえるソファ D」など、新しいタイプのワークショップも企画・実施
- 「かんがえるソファ+」:その時々ニュースや社会問題をテーマに参加者間で対話を深め、問題の本質を考察し解決策を探るイベント
- 「かんがえるソファ D」:合意形成や最適解を導くことを目指し、討議やディベートを目的としたイベント

＜表 6. 2018～2021 年度「かんがえるソファ」参加者数 企画＞

	2018	2019	2020	2021
前期(延べ)	27	10	92	70
後期(延べ)	68	122	81	45
合計(延べ)	95	132	173	115
開催回数	22	18	23	23

7) 利用学生の声: 高い満足度、対話しながら学ぶ機会の重要性

- ・ 利用満足度平均 (100 点満点/回答数 815 件/イベントは除く)

＜表 7. 利用満足度平均＞

	2021 前期	前期回答数	2021 後期	後期回答数
物理	93.9	32	98.1	16
数学	95.8	77	97.8	60
化学	97.8	27	97.9	21
総合実験	95.4	8	100.0	6
数学物理学演習	95.0	12	96.9	8
ライティング	96.7	67	99.2	40
英会話	97.0	179	98.4	143
日本語会話	99.1	66	98.9	53

＜表 8 利用学生アンケート(一部)＞

【理系】

オンラインだと情報の共有に時間がかかりますね。コロナが落ち着いたら、対面に対応していただきたいです。/説明を省かず詳しく教えていただけて嬉しかったです。私は物理に興味があり、新しい知識を得ることに喜びを感じます。とても楽しい時間でした。/去年習ったような基礎まで戻って丁寧に教えてくださってわかりやすかったです。本来できているはずのところを理解できていないことは恥ずかしいですが、説明して下さっているとき、そのように感じさせないような雰囲気のおかげで問題に向き合うことができました。/相手も同じ教科書を持っていたらわかりやすいなと思いました。(オンライン対応)/微分方程式の解法がわかりやすかったです。他の問題も友達と協力しながら解いてみようと思います。/問題を解くときの「なぜ？」を知ることができ、今までの化学の知識と繋がる部分があり、楽しかった。/証明を追いながら自分で言葉にして説明することで、自分の解答がなぜ間違っているのかを理解できました。/単位を取ることだけが目的だったが AA を狙うまでになった。/質問した内容だけでなく、その前提知識から応用まで教えていただけてとても助かりました。質問しやすい雰囲気でもとても楽しかったです。自分で考えて糸口を見つけることができたように感じます。ありがとうございました。

【英会話】

自分の好きなことやお気に入りの小説についての説明をしたので、いつもより積極的に英語で話すことができました。/英語の聞き方について、自分の直すべき箇所を的確にアドバイスしてもらえました。勉強の方針がたった気がしました。/先輩の学問に関する経験やこれからのビジョンなど、キャリア決定に役立つ話ができただけのいいなと思いました。/英会話に初めて挑戦し、良い結果が得られました。また、この英会話を使って英語でコミュニケーションを取る練習をしようと思います。/わからないことを日本語で聞いてもすぐ返して下さったのでわかりやすかったです。/自分が分からない英語は日本語での説明をまげて話して下さり、楽しく会話ができました。留学生の方とお話をしたかったので今日は有意

義な時間を過ごす事ができました。/普段からたくさん英語を使うことが大切だと感じました。

【ライティング】

うまく言葉で表せないときに表現を変えてフィードバックしてもらうことで、自分は何が言いたいかわかることができました。/先輩がとても話しやすく、和やかなムードにしてくださったので、私も思った事をどんどん口にできました。教えるというより、一緒に考えてくださっている感じで楽しかったです。/話しやすく疑問も解決したのでよかったです。気軽に利用できるのだから分らないことの多い一年生にとっても良いと感じました。/直前に資料をお送りしたにも関わらず的確なアドバイスをいただきました。/内容に対するアドバイスだけでなく、引用の書き方や字体のことまでなかなか質問できないことにも細かく答えてくださって感謝しています。この制度を利用するのが初めてで少しとまどっていたのですが、またすぐにも利用したいと思います。

【日本語】

会話の進み方がスムーズで素晴らしかった。また、セッション終了後に日本語の改善すべき所も分かりやすく指摘してくれた。/日本語があまり上手でない外国人の私にも聞き取れるし、会話のテンポも特に速くはない。たくさんのお話を学びました。/Aさんは優しいし、コミュニケーションしやすいし嬉しいです。/Kさんが優しいので楽しんで時間を送りました。会話の練習もいっぱいやりました。/Eさんは私が話したことについて、同意だけでなく自分の経験した事をシェアして聞く人に親切感を感じさせられてとてもいいと思います。/Oさんの対応がとても親切です。自分もたくさん日本語を話したのでとても楽しかったです。語学力に応じて日本語の練習をしてもらえます。ただ日常会話だけでなく、論理的に話すためにも練習できたのでとても満足です。/Mさんとたくさん話して楽しかったです。30分しかないので、ちょっと時間が短かったと思います。

【企画】

活発に意見交換でき、良い意味で裏切られました。/中途半端で抽象的だった理解がより体系的になりました。有益な結論も導くことができました。やはり他人と言葉を交わしながらの方が思考が整理されると感じた。/他の人の話を聞くことで自分の考えをまとめることができ、良かったです。/同じ学年の人たちが、どう問題にアプローチするのが見れて非常に興味深かった。/チャットを使った議事録がわかりやすく、それぞれの立場や考えを整理できました。/もう少しアイスブレイクして参加者と打ち解けたかった。/自分では経験した事がなく、分からないことでも他の人が経験していて、そこから得られたことをお話ししてくださったのでこれからの自分に行かせそうな事が多かった。考えること、自分の意見を発信することの有意義さを感じた。

8) 学習情報の発信

オンデマンド教材の開発

「レポート作成入門ゼミ」(classroom を利用したオンデマンド教材) (主に前期)

一昨年度まで新入生向けのイベントとして開催していた「レポート指南書入門ゼミ」の内容を改訂した「レポート作成入門ゼミ」をオンデマンド教材として発信(全5回の動画)。2021年6月～運用開始。classroom 登録者は、前期セメスターの登録者数は約340名。後期は一般学生への広報を行わず、前期からの継続登録希望者と、特定の授業やターゲットにのみ案内した(登録者数61名)。

理系・実験レポートの書き方ワークショップ(主に前期)

物理担当のSLAが、実験系のレポートの書き方を学ぶ全3回のワーク型の教材を開発。オンラインでのイベント開催(2021年6月11日・18日・25日・7月2日・9日 全5回)を行うと同時に、オンデマンド教材としても発信(全3回の動画)。イベント参加者は計12名、classroom 登録者は約100名。

イベントは、自然科学総合実験を後期に履修する学生の参加割合が高く、事後アンケートでは高い満足度だった。

Twitter (@sla_tomosodachi) やHPを中心としたオンラインでの学習情報の発信

- フォロワー数 2022年3月15日現在 1,615名
- 物理・化学：主に1年生に向けて、学びに役立つ情報を投稿。30を超える記事を発信し、多いものでは9,000に迫る閲覧数があった。
- 数学：自宅で個別に学習する学生が増えている状況を鑑みて、数学の分野別のおすすめの参考書を一覧にしたページを加筆し、再公開。
<https://docs.google.com/document/d/16kAT0UuCZK1yMvHhbYCTtMp3DMDxwInvKD63xoQKUJw/e/dit?usp=sharing>
- 数学：「数学部会の挑戦状」と題して、発展的な問題を出題。複数の回答が寄せられた。後期は、講義棟内だけでなく学生食堂にも問題を掲示した。
- 英会話：日常会話の中で使える便利なフレーズやおすすめの学習方法などを、twitter でほぼ毎日発信 (@SLAenglish)
- 講義棟やM棟内でのポスターやチラシ掲示
- SLAの周知・利用促進のため、サポートのスケジュール、学びのヒントやオンライン対応案内などをポスター掲示

9) SLA 研修

● 活動説明会・活動報告会の実施

前期

4/5 新任 SLA 研修会（対面実施）・ 前期活動説明会（オンライン開催）

8/6 前期活動報告会（オンライン開催）

後期

10/7 後期活動説明会（オンライン開催）・ 新任 SLA 研修会（対面実施）

2/16 活動報告会（オンライン開催）

● 北海道大学ラーニングサポート室との合同研修 2月21日（月）14:00～17:00

- 従来は東北大学（川内北キャンパス M棟）にて開催していたが、今年度も昨年度に引き続き Zoomにて実施。オンラインでの理系科目の学習支援について、情報共有・意見交換を行った。
 - 参加：東北大 SLA（4名）：物理2，数学2／学部生1，M院生3名
北大 TA（3名）：数学3／M院生2，D院生1名

9) 『SLA SUPPORT GUIDE BOOK 2022』の作成

- 全学部1学生に配布。学習支援センターの利用案内、大学で学ぶ上で役立つヒント等を紹介。
 - 2021版からの変更点：
 - 2021版では留学生向けガイドブックのみにあった「宮城・仙台ガイド」を国内学生向けに追加
 - 化学の「学びのヒント by SLA」ページを充実化（1p → 4p）
- 留学生向けに、『SLA SUPPORT GUIDE BOOK 2022 for international students』を、オンラインガイドブックとして作成。

3. 研修実績報告

|| Summary ||

■活動説明会

活動説明会を、前期は2021年4月5日、後期は2021年10月7日に実施した。活動説明会は、全SLAを対象に、各セメスターのはじめに実施する研修（Off-JT）の1つである。その目的は大きく3つある。第1に、SLA同士の交流である。新規採用のSLAを紹介すると共に、すべてのSLAが一堂に会する数少ない機会であるがゆえに、部会や同一曜日シフトを超えた交流を促す。第2に、当該年度の重点目標や、当該セメスターの課題と活動目標等を全SLAに共有することである。2021年度の重点目標は、前年度のコロナ禍状況下で顕在化した問題を踏まえて、東北大生の『学びの転換』と自律的な学習態度の形成を多方面から支援すること、そして、「多様な人同士がつながる場をつくり、ラーニング・コミュニティの形成を戦略的に促進」することの2点である。目的の第3として、活動説明会内にSLA同士のディスカッションの時間を設け、学習支援の望ましい在り方や実践的な課題の解決方策について、協同的に学ぶ場の1つとする。

■リフレクション会・活動報告会

前期リフレクション会は2021年8月6日、後期活動報告会は2022年2月16日に実施した。リフレクション会や活動報告会の目的は、主に以下の3点である。第1に、活動説明会で全SLAに共有した重点目標に基づき、各セメスターの活動をふりかえり、そのふりかえりの内容をSLA相互に共有することである。第2に、ふりかえりに基づき、次期の活動に向けた成果と課題を整理する。第3に、通常の勤務の中では交流機会の少ないSLA同士の交流の場とすることである。半期のSLAの活動概要と利用者の傾向分析を共有し、各部会から活動報告を行った上で、活動の全体的なふりかえりとSLA相互の交流を行った。

■北海道大学との合同研修の実施

2021年度は、2月21日に、北海道大学ラーニングサポート室との合同研修をオンラインで実施した。SLAからは4名の学生（物理2，数学2）が参加した。

1 活動説明会

1. 前期活動説明会：2021年4月5日（月）15:30-17:00

本日の予定

センター長挨拶・趣旨説明	15:30-15:40
▶ 2020年前期メンバー＋部会紹介	15:40-16:05
▶ 新メンバー自己紹介	16:05-16:15
今期の目標の共有	16:15-16:30
基本事項の確認	16:30-16:50
▶ 今後の予定・質疑応答・感想入力	16:50-17:00

活動説明会の目的

1. 2021年度のSLAのメンバーを知る

- ・これから半年間、一緒にSLAとして活動する仲間を知りましょう！

2. 2021年度の学習支援センターの取組方針を共有する

- ・センターの一員として、SLA全体の共通目標を理解し、具体的な活動の在り方を一緒に考えましょう！

学習支援センターの使命

- (1) 学生の主体的・自律的な学習を実践的に支援・促進し、研究大学で学ぶ学生が習得すべきコンピテンシーを育成する。
- (2) 初年次教育や学習支援に関する国内外の動向を調査研究し、大学における学習支援の質的向上に寄与する。
- (3) 教職員・学生の中に「学び合い」文化を醸成し、学習共同体（ラーニング・コミュニティ）の形成に寄与する。

昨年度の重点目標

1. Web会議システムを活用した遠隔支援体制の構築・運用
2. オンラインによる学習企画や情報発信の企画と試行
3. オンデマンド教材の開発

昨年度の成果と課題

◎オンラインでも、SLAらしいサポートができた！

- ・ 利用者の様々なニーズに寄り添った学習支援
- ・ Meetやjamboardをうまく活用

◎より多様な学生にアプローチできた！

- ・ 高年次の利用者が増加。海外にいる留学生の利用も

△利用のハードルが上がってしまった可能性

- ・ 1年生、特に成績下位層の利用が減少

△基本的には「1対1」の支援がほとんど

- ・ 学生同士の「学び合い」を促すことにアプローチできず

2021年度

学習支援センター 重点目標

1. 「学びの転換」と自律的な学習態度の形成を、多方面から支援
2. 多様な人同士がつながる場をつくり、ラーニング・コミュニティの形成を戦略的に促進

1. 「学びの転換」と自律的な学習態度の形成を、多方面から支援

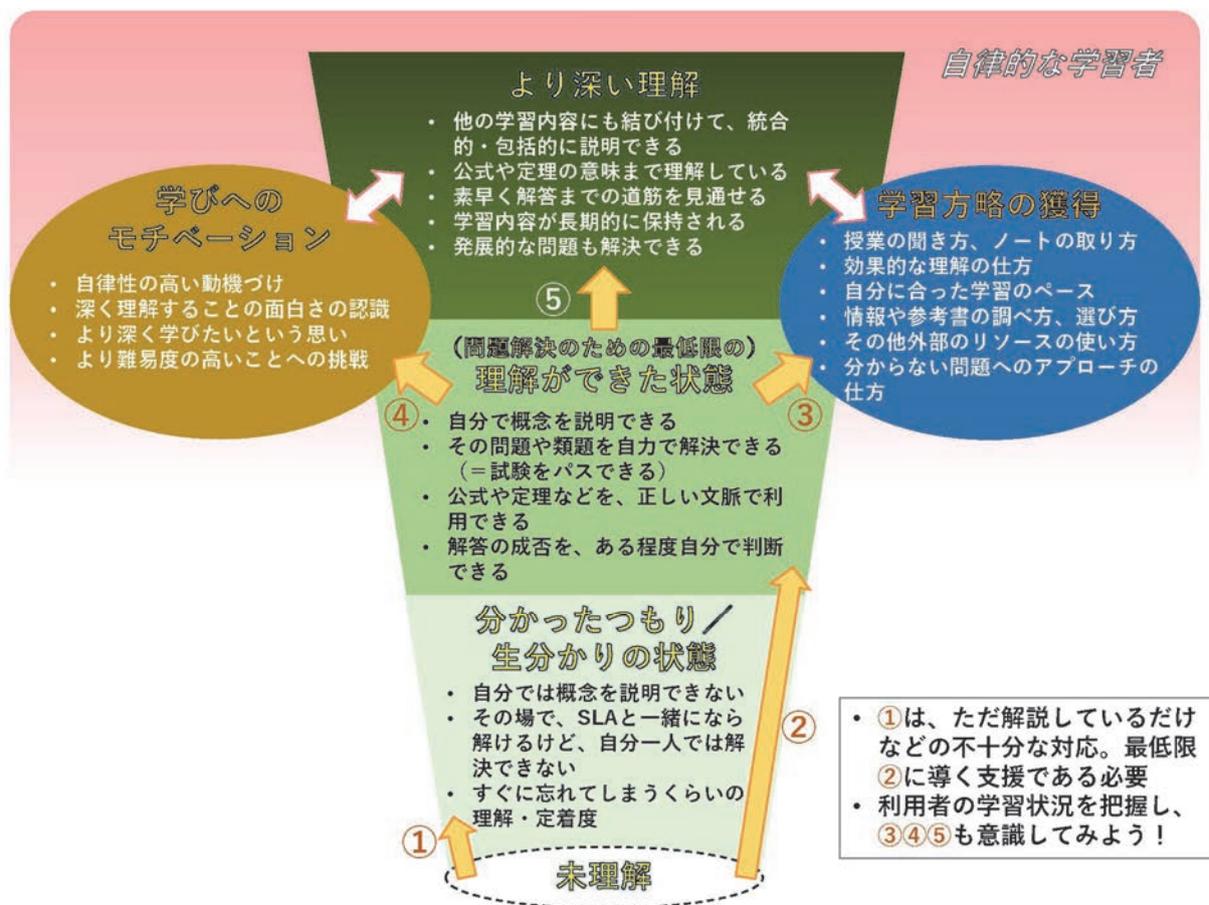
- 昨年度は、急遽、オンラインでの支援への移行が強いられました
- その中で、どの部会も質の高い活動
 - 高い利用者満足度：**平均96.9**（※イベント利用を除く）
- 今年度は、その質をさらに上げるために、SLAの根本的な目的から、対応を見直してみましょう
- SLAの対応
 - 利用者のニーズを満たすこと（問題を解決することなど）も大事
 - 楽しい雰囲気を作ることも大事
 - ただ、これらはいずれも一番の目的を達成するための「手段」
- より大事な目的は、**1・2年生に学びの転換を促し、自律的な学習者になってもらうこと**
 - 対応面でも発信面でも、この点をもっと追求しよう

【理系】 【ライティング】

- 自律的な学習者になってもらうための支援とは？
- 教えすぎてないか？ 目の前の問題を解決することが目的になってないか？
- 本当に支援を必要としている層にどうアプローチする？

【英会話】 【日本語会話】

- 利用者の英会話力／日本語会話力を高めるために、もっと効果的なサポートやフィードバックの方法は？



2. 多様な人同士がつながる場をつくり、ラーニング・コミュニティの形成を戦略的に促進

- 「ラーニング・コミュニティ」の形成
 - 従来よりセンターの主要な使命の一つであったが、あまり意識的・直接的にアプローチしてこなかった
- コロナ禍でオンライン授業が中心となった今、このことは過去になく切実なものに
- 学内（外）にいる様々な人通しが出会い、つながり、学び合う・触発し合うようなコミュニティの形成に、SLAはどのような役割を果たせるか？
 - 先輩・後輩
 - 利用者同士
 - 留学生と日本人学生
 - 異なる領域の者同士
 - たぶん、他にも…
- 学びのネットワークの「ハブ」となるような活動を

【英会話】 【日本語会話】

- ・ 1対1の支援を引き続き充実させつつ、学生間のつながりづくり（留学生と国内学生のつながりを含む）を促進させる

【企画】

- ・ 初年次学生の大学適応や、社会的つながりの形成をサポートする企画

【SLA全体】

- ・ SLA内の部会間の交流も、リモート化によって希薄に。今期はSLA間の交流を活発にし、多様な領域のメンバーがいるからこそできるような企画を打ち出そう

1. SLAの使命（の確認）

- ・ 学生の主体的・自律的な学習を促進・支援する。
- ・ 学生の中に「学び合い」文化を醸成し、学習共同体（ラーニング・コミュニティ）の形成に寄与する。

学習支援のコンセプト

ともと学ぼう、ともに育とう、ともそだち

Together we learn, Together we grow,
TOMOSODACHI!

- SLAとしての4活動

- 大学の教育活動に従事する者としての責任を持って！

支援
活動

運営
業務

研修
活動

学習

上記のすべての活動・業務に付随して必要となる自主学習。
センターが業務として強制するものではありませんが、
どんな仕事においても、この自主学習が基盤にあります。

2. 今年度からの主な変更点

- 1) 対面利用は予約不要，オンラインは予約制継続
- 2) 理系以外はURL送信メールをサポ室から送信
- 3) ラウンジは自習利用のみ可能

1) 対面利用は予約不要，オンラインは予約制継続

- 理系: BCP3の間は対面とオンライン併用
 - M棟出勤
 - 対面利用は予約不要，待ち札制。
 - オンライン対応は去年と同様。
- ライティング:
 - 一年生の利用促進のため対面併用の可能性あり
 - 対面併用の場合，理系と同様。
- 英会話 日本語会話:
 - 昨年同様オンライン対応のみ。

2) 理系以外はURL送信メールをサポ室から送信

昨年度，英会話担当の田中くんがURL自動送信プログラムを作成してくれました。

- 英会話 日本語会話 ライティングについてはSLAのメール送信作業がなくなる予定です！
- 理系についてはJamboardが自動で作成できないので昨年と同様にSLAのみなさんに送信をお願いします...

田中くん，ありがとう！！

3) ラウンジは自習利用のみ可能 ◆ 感染防止対策



- 空間の3密対策
 - ラウンジは自習利用のみ可.
 - SLAはラウンジを広く使い，分散して対応
- 飛散防止
 - SLAも利用者もマスクの着用必須
 - アクリルの仕切りの利用
- その他
 - 消毒液，おしぼり（机拭き用）を用意
 - 利用者は利用前に検温（37.5度以上の場合は利用不可）

インターネット上の資料検索

- 東北大学図書館の電子ブック
 - 蔵書検索のページで電子ブックにチェックをいれて検索！
- Googleなどでの検索
 - 検索ワードの後ろに「スペース pdf」をつけると資料の質が改善される可能性あり
 - 良い資料を見つけたら部会内で共有を！

Jamboardについて

- マウスで書いてもらおう
 - PC版のアップデートにより、マウスでもそれなりに書けるようになりました
 - iPadやペンタブを持っていますか？
は聞かなくてもよい
->マウスで書いてくれなくなるのでは？
- ズーム機能を使おう
 - 小さい文字が書けないときは、ボード自体をズームしてみましょう

始礼・ブリーフミーティング

始礼 : その日の活動を行う上での確認の場

- ①前週の気づきや共有事項の確認（前週のBMTGを受けて）
- ②その日（週）の予定、意識して欲しいこと
- ③その他連絡事項

BMTG : 対応中での気づきの共有や相談の場

- ①その日に行った活動を簡単に報告
- ②その日の活動の中で得られた気づきや相談したいことを中心に。
 - ・ 対応に関わる新しい気づき、難しかったこと、もやもやしたこと、
こういうケースはどうしたらいい？という疑問や悩み など
- ③シフトや部会を超えて共有すべきこと
 - ・ 増えそうな質問、また来そうな利用者、テスト情報 など

今後の大まかな予定

4/24(金)	シフト希望調査〆切
4/30(木)	シフト仮案通知
5/7(木)	シフト最終決定
5/11(月)	理系対応開始

4/27(月)～5/9(土) オンライン対応の準備期間（模擬対応などを実施）

本日の予定

挨拶・趣旨説明	15:30-15:40
自己紹介	15:40-16:20
▶ 各部会紹介	
▶ 新メンバー自己紹介	
センターより	16:20-16:40
▶ 今期の活動形態など	
ディスカッション	16:40-17:20
まとめ・感想入力	17:20-17:30

2021年度 学習支援センター 重点目標

1. 「学びの転換」と自律的な学習態度の形成を，多方面から支援
2. 多様な人同士がつながる場をつくり，ラーニング・コミュニティの形成を戦略的に促進

1. 「学びの転換」と自律的な学習態度の形成を，多方面から支援

- SLAの対応の目標
 - 利用者のニーズを満たすこと（問題を解決することなど）も大事
 - 楽しい雰囲気を作ることも大事
- ただ，これらはいずれも一番の目的を達成するための「手段」
- より大事な目的は，**1・2年生に学びの転換を促し，自律的な学習者になってもらうこと**
- 対応面でも発信面でも，この点をもっと追求しよう

2. 多様な人同士がつながる場をつくり，ラーニング・コミュニティの形成を戦略的に促進

- 学内（外）にいる様々な人が出会い，つながり，学び合う・触発し合うようなコミュニティの形成に，SLAはどのような役割を果たせるか？
 - 先輩・後輩
 - 利用者同士
 - 異領域の学生同士
 - 留学生と日本人学生
 - 他にも...

→学びのネットワークの「ハブ」となるような活動を

部会ごとの今期の取り組み目標

【理系】

- ・ 1年半ぶりに対面中心。オンラインを経験していないメンバーも多い。対面での支援に慣れ、対応の質を高めよう！

【ライティング】

- ・ 後期の対応数は減る見込み
→利用促進のための広報・教材作成にも力を入れよう

【英会話】 【日本語会話】

- ・ 引き続き、多様化したニーズやレベルに対応し、オンラインでの1on1の質を高めよう
- ・ 体験weekや文化カフェなど、交流イベントも継続・発展

【企画】

- ・ かんがえるソファを継続、新企画も実施

◆勤務時間

・ 勤務・対応場所

【理系】

- ・ 川内北キャンパス・M棟での対面による対応
- ・ BCPレベルが上がった場合、オンライン中心になる可能性も

【ライティング】 【英会話】 【日本語会話】

- ・ リモートでのオンライン対応

・ 基本の勤務時間（企画を除く）

14:15-17:55（3時間30分の給与支給）

◆対応形態

【ライ】 【英】 【日】 → 基本は前期と同様

- 予約方法
 - オンラインでの事前予約制
 - 対応3時間前まで予約可
- 対応時間
 - ライティング45分
 - 英・日30分
- サポートの方法
 - 基本はmeet。URLはサポ室から送付

【理系】 → 基本はコロナ以前のイメージ

- サポートの予約
 - 予約不要。利用したい時に来てもらう（drop-in）
 - オンラインでの対応は、問い合わせがあれば対応
- 対応時間
 - 基本は45-50分
 - 利用状況に応じて延長可／30分程度で回す場合も
 - 最終受付は16:50（17:30には終了）
- 対応カルテ
 - 基本は紙のカルテに戻す予定
 - 利用者の資料のコピーや計算用紙の添付、SLA内での閲覧が容易であるため

◆シフト内の活動

- 基本は前期と同様に、4・5限の時間に活動
 - ・ **始礼**：「M棟組」と「リモート組」に分かれて実施
 - ・ **ブリーフミーティング**：全体で実施（@全体meet）

	理系科目（対面）	その他（リモート）
3限 (13:00～14:30)	■ 始礼@M棟 14:15～14:20	■ 始礼@全体meet 14:15～14:20
4限 (14:40～16:10)	■ 対面での対応 14:30～17:20	■ オンラインでの対応 14:40～17:20
5限 (16:20～17:50)	■ ※最終受付は16:50 ■ BM 17:40～17:55	■ ※各科目 予約は3枠 ■ BM 17:40～17:55

※始礼・ブリーフミーティングとは

BMTG：対応の中での気づきの共有や相談の場

- ① **その日に行った活動を簡単に報告**
- ② **その日の活動の中で得られた気づきや相談したいことを中心に。**
 - ・ 対応に関わる新しい気づき，難しかったこと，もやもやしたこと，
こういうケースはどうしたらいい？という疑問や悩み など
- ③ **シフトや部会を超えて共有すべきこと**
 - ・ 増えそうな質問，また来そうな利用者，テスト情報 など

始礼：その週の活動を行う上での確認の場

- ① 前週の気づきや共有事項の確認（前週のBMTGを受けて）
- ② その週の予定，意識して欲しいこと
- ③ その他連絡事項

◆スタッフのサポート体制

【ライティング】 【英会話】 【日本語会話】

- スタッフでは基本，佐藤・堀越が対応
 - 対応のない時間は，前期と同様に全体meet or 部会meetに
- 利用者がmeetに入っていない場合
 - 10分程度は待機 & スタッフに連絡
 - 無断キャンセルが続いた場合は，サポ室からメールします
- meetは利用者の許可があれば録画
 - 定期的にビデオリフレクションを！

【理系】

- スタッフでは基本，中島・縣（+堀越）が対応
 - ※中島は金曜，縣は月曜不在
- コロナ対策のため，できるだけ自分のPCやヘッドセットの持参を
 - 空いた時間の部会作業，BMに使用
 - 利用者からの問い合わせに応じて，オンラインでの対応をお願いすることも
- 勤務マナー
 - 遅刻厳禁
 - 食事はできれば済ませてきてね
 - 服装や寝ぐせにも気をつけようね！

◆企画部会について

- 不定期の活動 → 基本シフト制に

メインの活動曜日・時間

水曜 14:45-17:55

- 他のSLAとの連携
 - ブリーフミーティングに参加
 - 対面での活動も

◆感染防止対策

- 空間の3密対策

- ラウンジは、SLA利用者以外は立ち入り禁止
- SLAはラウンジを広く使い、分散して対応



- 飛散防止

- アクリルの仕切りを使用
- SLAも利用者もマスクの着用必須

- その他

- SLAは出勤したらまず消毒&検温
- 消毒液、おしぼり（机拭き用）を用意

◆環境面の準備・サポート

- 希望者にはサポ室のヘッドセットを貸与
- リモート組で、M棟勤務したい人は連絡を
 - 前後の授業の都合・自宅の通信環境が悪い場合など
- 自動車通勤の人がいたら連絡を！
 - 川内キャンパスの駐車場のパスを発行します

ディスカッション

コロナ時代に入学した今の1・2年生が必要としていること（奪われてしまった大事なこと）を想像し、SLAがすべきこと、できることを考えよう

- 新しい活動やイベント
- 日々のサポートや発信の在り方 など

ヒント①

・東北大のこの2年の授業等の状況

	授業	サークル	SLA
昨年前期	オンラインのみ	全面禁止	オンラインのみ
昨年後期	オンライン中心, 一部対面	ほとんどOK	対面・オンライン併用
今年前期	オンライン中心, 対面併用	一部OK	基本オンライン
今年後期	対面中心, オンライン併用	ほとんどOK	対面・オンライン併用

ヒント②

・SLA = 「先輩」という立ち位置

- ・ 利用学生からすると、教員より近い立場？
 - ・ 率直に相談できる？
- ・ 比較的近い時期に同様の経験
- ・ このような立場を活かしてこそできることは？

2 活動報告会

1. 前期活動報告会：2021年8月6日（金）14:00-17:00

本日の予定

- 14:00~14:30 開会・サポート室より
- 14:30~16:00 部会発表（途中で10分程度休憩）
- 16:00~16:40 グループ・ディスカッション
- 16:40~16:50 修了生プレゼン
- 16:50~17:00 まとめ・閉会

発表方法

- ・ 各部会、持ち時間は10分
 - ・ 目安は、発表6-7分、質疑3-4分
 - ・ スライドは発表者が画面共有
- ・ 発表順
 - ・ 前半：物理・数学・化学・ライティング
 - ・ 後半：英語・日本語・企画

聞き方

- ・ SLA全体として、今期どのような活動を行ってきたかを知ろう
- ・ 他部会の活動について気づいたこと、考えたことをフィードバックしよう
- ・ 自分たちの部会の活動のヒントを得よう。盗めるものは躊躇せず盗もう

2021年度

学習支援センター 重点目標

1. 「学びの転換」と自律的な学習態度の形成を、多方面から支援
2. 多様な人同士がつながる場をつくり、ラーニング・コミュニティの形成を戦略的に促進

1. 「学びの転換」と自律的な学習態度の形成を、多方面から支援

- SLAの対応
 - 利用者のニーズを満たすこと（問題を解決することなど）も大事
 - 楽しい雰囲気を作ることも大事
 - ただ、これらはいずれも一番の目的を達成するための「手段」
- より大事な目的は、1・2年生に学びの転換を促し、自律的な学習者になってもらうこと
 - 対応面でも発信面でも、この点をもっと追求しよう

2. 多様な人同士がつながる場をつくり、ラーニング・コミュニティの形成を戦略的に促進

- 「ラーニング・コミュニティ」の形成
 - 従来よりセンターの主要な使命の一つであったが、あまり意識的・直接的にアプローチしてこなかった
- 学内（外）にいる様々な人通しが出会い、学び合う・触発し合うようなコミュニティの形成に、SLAはどのような役割を果たせるか？
 - 学びのネットワークの「ハブ」となるような活動を

1. 学びの転換と自律的な学習態度の形成の支援
2. 多様な人同士がつながる場づくりや、ラーニング・コミュニティの形成

上記2つの目標に向け、SLAができること、すべきことはなんだろう？ 前期の成果・反省を踏まえて、後期に取り組むべきことを考えよう

方法

- ・ ブレイクアウトルームを使用
- ・ 時間は40分間
- ・ 時間があれば簡単に発表してもらいます

2. 後期活動報告会：2022年2月16日（水）13:30-17:00

目的

- ・ 後期活動のふりかえり
- ・ 来期に向けて成果と課題の共有
- ・ SLA修了生の送り出し

本日の流れ

1. 学生の利用傾向速報
2. SLA活動報告(各部会より)
3. センターからの総括
4. ディスカッション
5. ディスカッション
6. 活動証明書授与

スケジュール

- ・ 13:30～会の趣旨説明&開会の挨拶 (5分)
- ・ 13:35～学生の利用傾向速報 (15分)
- ・ 13:50～SLA活動報告(10分×7部会+休憩10分)
- ・ 15:10～センターからの総括 (15分)
- ・ 15:25～休憩(10分)
- ・ 15:35～ディスカッション(40分)
- ・ 16:15～センター長 挨拶 (5分)
- ・ 16:20～活動証明書授与 (10分)
- ・ 16:30～活動報告会リフレクションシート記入&写真撮影
- ・ 17:00 活動報告会終了

2021年度 学習支援センター 重点目標

1. 「学びの転換」と自律的な学習態度の形成を，多方面から支援

1. 多様な人同士がつながる場をつくり，ラーニング・コミュニティの形成を戦略的に促進

1. 「学びの転換」と自律的な学習態度の形成を，多方面から支援

・SLAの対応の目標

- ・利用者のニーズを満たすことも大事
- ・楽しい雰囲気を作ることも大事

→ただ，これらはいずれも一番の目的を達成するための「手段」

・より大事な目的は，1・2年生に学びの転換を促し，自律的な学習者になってもらうこと

→対応面でも発信面でも，この点をもっと追求しよう

2. 多様な人同士がつながる場をつくり、ラーニング・コミュニティの形成を戦略的に促進

- 学内（外）にいる様々な人が出会い、つながり、学び合う・触発し合うようなコミュニティの形成に、SLAはどのような役割を果たせるか？

- 先輩・後輩
- 利用者同士
- 異領域の学生同士
- 留学生と日本人学生
- 他にも...

→学びのネットワークの「ハブ」となるような活動を

部会ごとの今期の取り組み目標

【理系】

- 1年半ぶりに対面中心。オンラインを経験していないメンバーも多い。対面での支援に慣れ、対応の質を高めよう！

【ライティング】

- 後期の対応数は減る見込み
- 利用促進のための広報・教材作成にも力を入れよう

【英会話】 【日本語会話】

- 引き続き、多様化したニーズやレベルに対応し、オンラインでの1on1の質を高めよう
- 体験weekや文化カフェなど、交流イベントも継続・発展

【企画】

- かんがえるソファを継続、新企画も実施

【理系支援】 物理 数学 化学

a) 窓口対応

◎メンバーそれぞれが「教えすぎない対応」をよく意識し、その効果的な方法を追求

- ・ 対面対応の良さを生かし、利用者の思考にじっくりと付き合うような対応が増加
- ・ それらは、オンラインの対応にも活かすことができていた様子
- ・ 上記のSLAの方針は、リピーター利用者にも浸透

△やや時間がオーバー気味に

- ・ 利用者自身で考えられるような段階まで付き合い、あとは再度の利用を促すなどの工夫と勇気が必要か

☞ 有益な対応方法の知見を、全体で共有・議論していけたら

【理系支援】 物理 数学 化学

b) 発信活動

◎前期はtwitterを用いて積極的に学習情報を発信

◎後期は、様々な発信のあり方を検討

- ・ 直近の対応内容をホワイトボードで掲示 & オンラインで発信
- ・ 数学部会からの挑戦状を川内の生協で掲示
- ・ SLAガイドブックにおける「学習のヒント」の記事の充実化

△対応の合間で、あまり効率的に作業が進まなかった感

△発信のフィードバックの少なさ、効果の手ごたえのなさ

☞ 効果的な発信や作業の在り方を引き続き探ろう

ライティング

◎留学生対応の知見・スキルの向上

- ・ 日本語のチェックにとどまらない、より柔軟な対応

◎日本人学生の利用者・リピーターも増加

◎部会内の連携・部会作業が充実

- ・ 新しくライティングやプレゼンに関するTwitter発信
- ・ 留学生の対応方法のまとめ作成、対応文字起こし

△まだまだ日本人の利用者は多くなく、1年生の間に浸透しておらず

⇒ 来期は「学問論」が始まり、1年生の利用の仕方が変化する可能性。授業とも連携しながら、効果的なサポートのあり方を

英会話

◎オンラインによる1on1の対応の充実

- ・ 各SLAの経験や趣味、個性を活かした対応内容
- ・ 多様な利用者層・利用者ニーズに対応。各種試験や専門的な内容、ライティングに関わる内容に対応するための知見が蓄積

◎twitterによる発信の充実

- ・ ほぼ毎日、様々な情報を発信

◎「利用者同士の交流」のための企画も積極的に検討・実施

- ・ 「体験week」「End of year 英会話カフェ」

△1年生の利用がやや減。コロナのためモチベーション維持が難しい？ また「利用者同士の交流を促すこと」にも課題

⇒ コロナが落ち着いた際には、対面によるカフェを復活させても？

日本語会話

◎各SLAが熟達し、1on1の対応の質向上

- ・シフトごとの振り返り・共有のサイクルも効果的に機能

◎新しいイベントが形に

- ・留学生と日本人学生が交流する「文化カフェ」
- ・上級者向けに、トピックを搾って議論する「ワークショップ」

△上級者の「出口」としてのイベントや、初級者（N3以下のレベル）向けの活動には、引き続き課題

- ☞ 来期も1on1のみでなく、様々な層に向けたイベントを積極的に検討・実施！

企画

◎曜日を固定した対面の勤務が奏功

- ・企画メンバー間のみでなく、他部会のメンバーとの交流も活発に

◎「かんがえるソファ」は、順調に展開

- ・ファシリテーションのスキルの向上
- ・各メンバーの趣味や経験を生かしたテーマ（「アイドル」など）
- ・対面にしたことで、リピーター参加者も増加

△その他の企画はあまり実現せず

- ☞ コロナの状況も伺いながら、対面とオンラインの双方で様々な企画を

1. 成果

◎オンライン・対面の双方で、質の高いサポートを提供

- ・ 利用者のニーズや学習状況に寄り添い、学生同士という特徴を活かした支援を提供
- ・ SLA自身の経験や個性を生かしたサポートの在り方

◎より多様な利用者に対してアプローチ

- ・ 今までにない、高年次の利用者
- ・ 遠方や海外に滞在している学生・留学生の利用も

◎新しいイベントや発信の積極的な検討・試行

- ・ より多くの学生にSLAを知ってもらい、より多様な層にサポートを届けるために

2. 課題（主にサポ室の課題）

△1年生へのより積極的な周知、利用促進の必要性

- ・ より多様なチャンネルでの発信、授業との連携
- ・ （BCPレベル次第で）川内での対面のイベントを積極的に実施

△異なる部会のSLA同士の交流が減少

- ・ コロナ禍ではどうしても限界も。アイデア募集中！

△今期で、多くのベテランSLAが修了

- ・ 来期は、特に「コロナ前のSLA」を知るメンバーが稀少に
- ・ コロナが減少しても、「コロナ前に戻す」のではなく、「新しいSLAの在り方を作っていく」ことが必要になる可能性

(1) 概要

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年度に引き続き今年度も他大学との合同研修がオンラインにて開催された。活動概要は次表の通りである。

<2021 年度他大学合同研修開催要項>

企画名	2021 年度 学習支援スタッフ合同研修会
企画運営	東北大学 学習支援センター／北海道大学 ラーニングサポート室
趣旨	大学生に対する学習支援を担うセンター間の交流と情報交換、そして研修の合同実施等を通して、相互の組織運営体制や学習支援事業改善につなげる。特に、学習支援スタッフとして活動している学生同士が交流することにより、自らを客観的に見つめ、これまでの活動を振り返る機会や場としつつ、学習支援者としてのさらなる能力向上やスキルアップを図る。また、どちらのセンターも昨年度よりオンライン対応を行っているため、これについて情報交換および意見交換を行い、オンラインによる学習支援の質向上を図る。
場所	Zoom ミーティングルーム
事前準備	各大学の概要等情報共有など
日程	2022 年 2 月 21 日 (月)
参加者	<p>■ 東北大学 教職員：中島啓貴 SLA：4 名</p> <p>① 竹平 航平 理学 M2 数学 (SLA 歴：3 年目) ② 松本 悠太 情報 M1 数学 (SLA 歴：2 年目) ③ 鈴木 善久 理学 M1 物理 (SLA 歴：2 年目) ④ 菅野 翼 理学 B4 物理 (SLA 歴：1 年目)</p> <p>■ 北海道大学 高等教育推進機構高等教育研修センター ラーニングサポート室 教職員：須田 裕介 LSO 特定専門職員 佐々木 伸 LSO 特定専門職員 TA：3 名</p>
スケジュール	<p>14:00～15:00 趣旨説明、自己紹介、アイスブレイクなど</p> <p>15:00～16:00 【第一部】両大学からの取組概要説明</p> <p>16:00～17:00 【第二部】意見交換会</p>

(2) 目標

1. 【自己理解の深化】活動報告(アウトプット行為)によって自身の活動の自覚化・相対化を促進する。
2. 【具体的改善策の知見の獲得】他機関の活動を知ることを通して、自身の活動の固定概念を砕くと共に、活動改善のヒントや今後の新たな活動を考えるヒントを得る。
3. 【モチベーション向上】実際に他大学で類似の目的の下で活動している「人(学生)」との出会い・交流を通して、活動の関心・意欲の向上につなげる。

(3) 構成

今回の合同研修では、第一部として両大学での今年度の取り組みの報告を行い、第二部にて意見交流を行った。

【第一部】 各大学から運営方針および今年度の活動内容について報告

目標における【自己理解の深化】の達成のため、学生主体での今年度の活動内容についての報告を行った。特に、昨年度より経験が蓄積されてきているオンライン対応についての情報共有を行った。両大学にて作成している学習資料についてもいくつか共有を行った。また、各大学の組織の特性についての説明についても行った。

【第二部】 今年度の活動内容に関しての意見交換および相互交流

第一部における両大学の報告を踏まえ、質疑応答および意見交換を行った。学習支援を行っている学生スタッフが資料作成をする際に学生スタッフ同士でどのように情報共有を行っているのかについて共有がなされた。また今年度の学部一年生の現状を共有し、それを考慮した情報発信のあり方について検討した。今年度に限らず、学生スタッフと被支援学生との興味のギャップを埋めるようなアプローチをどのように行っていくのかといった議論がなされた。

4. 部会活動報告

1 物理部会

2021年度前期 活動報告 物理部会



今期の利用者傾向

質問内容

- 物理学A・Bの質問が多く、数物演習は少なめ
- 材料力学などハードな工学部専門科目の質問増

利用者

- 高校物理未履修者や丸投げ系利用者も含め、じっくり解説する必要のある利用者増
- 工学部生が多い中、農学部、医学部、理学部生の利用も見られた

利用傾向とその分析

- 物理学A・Bの質問増
 - 数物演習の質問減
 - 時間を要する対応増
- 質問を聞ける授業TAの有無
授業についていけない層



授業内で完結できず、立ち行かなくなった時の駆け込み寺としてSLAが機能？

- 学部の幅が若干広がった(医学部保健学科など)



同じ授業内で口コミによる伝播の可能性

発信について

Twitter発信

物理Tips

→前年度のものを再発信したが、トピックごとの反応が大きく違った

東北大学学習支援センター (SLA) @sla_tomosodachi - Jul 19
ヤコビアンとは何ぞ？
積分が出てくるレポート提出・テストの前日に読めてみよう！もしかしたら、点数上がるかも？

理系アニメ紹介

東北大学学習支援センター (SLA) @sla_tomosodachi - Jul 1
理系知識が学べる(?)アニメ紹介 #8
『とある科学の超電磁砲 (レールガン)』
toaru-project.com/railgun/1/
東京都西部に位置し人口230万人のその約八割を学生が占める都市「学園都市」。そこで全ての学生を対象にした超能力開発実験が行われており、学生たちは様々な能力を開花させている。(続く)

学びのヒント(Webサイト)

狩生くんによる惑星研究の魅力紹介 最新記事

12 40

5

惑星の研究ってどんなことをするの？

惑星の研究は実に多様です。
研究対象は惑星、衛星、小惑星、彗星など多岐にわたります。
そこからさらに地図や大気、磁気圏など、見る場所も変わります。

理系レポート企画について

- **目的:**例年、前期の序盤に利用が多い実験レポートの書き方の解説を通して、SLAを利用してもらう機会を作る
- **方法:**全体を「実験レポートの概要」、「イントロの書き方」、「結果と考察の分け方」の3回に分け、Zoom・Classroomでリアルタイムおよびオンデマンド配信を行った
- **結果:**自科総未経験者を中心に参加があったが、想定参加者数(数十人～)・Classroom登録者数(92人)を大きく下回る結果(~5人)に
- **考察:**準備に長い時間がかかり、開催時(6月下旬～)には実験レポートの質問が多い時期を逃してしまっていた

2021年度前期のまとめ

質問・利用者

- TAのいない物理学Aなどの科目を中心に利用があり、時間のかかる対応が増えた

発信作業

- 全面オンライン化に伴い手軽なTwitter発信が再びメインに
- 昨年度と同じ内容を流した際でも大きな反応が得られた

理系レポート企画

- 開催のタイミングが悪く、予想よりかなり参加者数が少なかった
- 参加者からは高いアンケート評価を頂いた

後期に向けて

対応全般

- 予め時間が限られていることを伝えるなど、対応が伸びないような工夫を
- 専門科目などハードな内容の質問が来た場合に備えて、回答集を作成

発信作業

- 対面の対応が増えてくるようであれば、ホワイトボードでの演習解説などの発信も再開
- 対面での発信内容をTwitterにも載せるハイブリッド方式

理系レポート企画

- 後期での開催は未定だが、開催するなら10月上旬～中旬で早めの行動を

2021年度活動報告

物理部会

Outline

1. 利用者傾向
2. 利用傾向の分析とその対策
3. 発信作業
4. オンライン対応について
5. 来期の活動に向けて
6. 2021年度の総括

利用者傾向

前期の傾向

■ 質問内容

- ・物理学A・Bの質問↗ 数物演習の質問↘
- ・材料力学などの工学部専門科目の質問↗

■ 利用者

- ・じっくり解説する必要のある利用者↗
- ・農学部・医学部・理学部の利用↗

後期の傾向

- ・物理学Bの質問↗ 数物演習の質問↗
- ・材料力学などの工学部専門科目の質問↗
- ・物理以外の質問（プログラミングなど）↗

- ・じっくり（長時間）解説を要する利用者↗
- ・農学部・医学部・理学部の利用↘
- ・テスト前の駆け込みの学生↗

発信作業

前期

オンライン中心

Twitter発信

- 前年度のものを再利用：前年と異なる反応



学びのヒント

- 狩生君による惑星研究の魅力紹介
最新記事

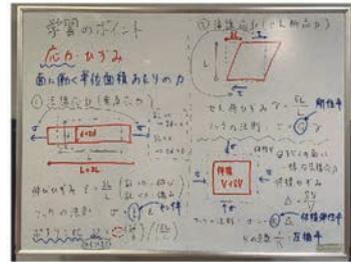


後期

対面中心

Twitter発信 + ホワイトボード

- 対面利用を想定して実施
- 実際に対応の中で出てきた問題を踏まえた内容をまとめた
- ホワイトボードの内容をそのまま発信



オンライン対応について

前期

ずっとオンライン

- オンラインでの授業が中心だったため、学生側・SLA側も日々オンラインという状況に順応

後期

年明けのオンライン再開

- (学生側) 柔軟に対応。対面の需要も引き続きあった。
- (SLA側) これまでのオンライン対応の経験から柔軟に対応できた。
その反面、対応時間の意識などのオンラインならではの不便さを実感した。

来期の活動に向けて

理系レポート企画

- ・昨年度は開始時期が遅れ、オンデマンド動画視聴も可としたこともあり、リアルタイムでの参加者がほとんどいなかった。
- 来期はゴールデンウィーク前に、**レポート強化週間**として実施予定。
- レポート強化週間では、理系レポート企画の内容に基づいて**SLAが相談者のレポート添削をする**予定。

来年の前期の通常活動予定

- ・工学部専門科目の質問 → 曜日間での**対応の情報共有を強化**していく
- ・対面かオンラインかはまだわからない → **臨機応変に発信作業**を行っていく

2021年度の総括

■ 利用者傾向

例年に比べ、工学部専門科目の質問の増加＋長時間の対応が目立った。

■ 発信作業

オンラインや対面でTwitterの発信内容の切り替えを行った。

■ オンライン（ハイブリッド）対応

学生側・SLA側も柔軟に対応。SLA側は対応時間に注意。

■ 来期の活動

レポート強化週間の実施・曜日間の情報共有の徹底

来期も物理部会をどうぞよろしくお願ひします。

数学部会 活動報告

2021年度前期の傾向と分析

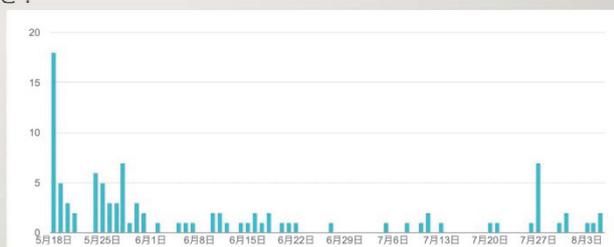
- 1. 曜日ごとの利用者数のばらつきが大きい
 - 月曜日: 1日7件の予約
 - 水曜: 1日1件も対応がないことも・・・
 - →学生の授業時間との兼ね合い
 - 対応時間を前倒しすることで改善
- 2. 後半は2年生の利用が増えた
 - 学生間の口コミで来てくれた

オンライン対応について

- オンライン対応の気付き
 - 予約が必要のため、参加ハードルが上がる→ 学生側も準備して来てくれる
 - 資料の共有に時間がかかる → 利用者側にもやさしい共有の仕方の模索が必要
- オンライン対応における工夫
 - 画面共有して問題の調べ方を教えられる
 - 利用者の視線誘導
 - 「次のページいきます」など

発信作業①：推薦図書書評ドキュメント作成

- 書評をホームページ→Google Documentに移動
 - アクセス解析ができるようになった！
- 68人のアクセス(SLA含む)
- 今後も定期的に宣伝していきたい



発信作業②：数学部会からの挑戦状

目的・手法

- SLAの宣伝、利用に繋がって欲しい
- M棟の前に掲示、解答用紙と回収箱を設置

結果

- 6人が解答(うち1人は直接持ち込み)
- 今までSLAを利用していなかった人も多かった
 - SLAの広報に繋がった？

Tohoku University Student Learning Adviser

WANTED

SLA 数学部会からの挑戦状

非整数である整数 $n (n > 0)$ に対して、数列 $\{a_n\}, \{b_n\}$ を

$$a_n = a_1^n, \quad b_n = b_1^n,$$
$$a_{n+1} = \frac{a_n + b_n}{2}, \quad b_{n+1} = \sqrt{a_n b_n} \quad (n = 0, 1, 2, \dots)$$

で定義する。

(1) 任意の n に対して、 $a_{n+1} < a_n$ が成り立つ a_1, b_1 であるものを求めよ。

(2) 任意の n に対して、 $a_{n+1} - a_{n+1} < a_n - a_n$ が成り立つ a_1, b_1 であることを求めよ。

(3) 数列 $\{a_n\}$ と $\{b_n\}$ が、同じ収束値に収束することを求めよ。



DEAD OR ALIVE MATH

SLA

解きたい方・解けた方は M棟1階 SLA 窓口まで。

東北大学学習支援センター 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F
<http://sla.chc.ine.tohoku.ac.jp> ■ sla-support@ira.tohoku.ac.jp

2021年度 数学部会 活動報告

2022年2月16日(水)
発表者：竹平航平(M2)

2021年度 活動のまとめ

1. 利用傾向

- ・ 対応量は曜日に大きく依存。中心的な利用科目は例年並み。
- ・ 英語など、イレギュラーな対応の増加。

2. 部会活動

- ・ 数学部会からの挑戦状
→ 3問出題。川内食堂へ掲示。解答者は…
- ・ 基底の説明選手権
→ 「基底」の概念の説明に関する研修を部会で実施。
- ・ 書評(継続掲示)
→ Googleドキュメントのリンクを公開。87人閲覧。

『いかにして問題を解くか』

1：問題を理解すること

- 未知のもの、データ、条件は何か？
- 図をかけ。記号を導入せよ。
- 条件を分離せよ。

2：計画を立てること

- 似た問題を知っていないか？
- 問題を言い換えることはできるか？
- データと未知のものとの関連
- データをすべて使ったか？

3：計画を実行すること

- 各段階を検討しながら計画を実行せよ

4：振り返ってみること

- 結果や議論をためすことはできるか？
- 結果を違った方法で導けるか？
- 本質的だったのは何か？

森さんおすすめ。



ポリア『いかにして問題をとくか』丸善出版(1971)

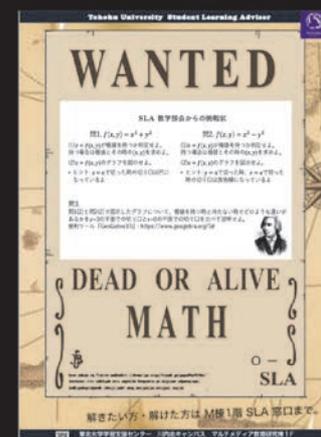
数学部会からの挑戦状

1. 目的・実施概要

- 目的：SLA周知・利用促進
- 概要：数学の問題を掲載し、提出された解答を添削全3回実施。
- 補足：川内食堂にも問題を掲示。

2. 結果

- 第1回(前期開催)に関しては4人の提出者あり
- 第2・3回目に関しては提出者なし
- 食堂掲示の効果は？



基底の説明選手権

1.目的

基底のTips作成、研修の一環

2.概要

第三回数学部会にて実施。二人のSLA(森・竹平)がそれぞれ説明をした後、良かった点、改善点について検討。

3.結果

対応の録画はあっても「〇〇さんの〇〇に対する説明」を聞く機会は貴重
自分の対応を客観的に見つめなおす機会になる

4.今後

今後も不定期開催 + 中島先生による確率・統計講座?

一次独立とは？



イメージ：

ゼロベクトルや並

基底ってなに??



2021年度前期 活動報告会資料 化学部会

本日のアウトライン

- 部会メンバー紹介
- 前期の活動紹介
- オンライン対応に関する気づき
- 特に学生に関する気づき
- 理系部会の皆さんへの呼びかけ

部会メンバー紹介 ※写真の解説は別スライドにて

中島くん (中島 優斗)

M1

4月から新加入し、既に複数の対応をこなしている。なお野球経験はないらしい。

千葉くん (千葉 湧太)

B4

理学部の奨励賞を受賞した凄い子。最近は教育実習の課題に追われる毎日。

すいすい (三上 翠跳)

B4

名前は「すいちょう」と読みます。手先が器用で、バルーンアートが得意。

三上さん (三上 進一)

D3

部会きってのゲーマー。最近ポケモンユナイトに参戦、MOBA初心者を蹴散らした。

中村 (中村 祐輝)

M2

三上さんの院政と優秀な後輩に挟まれ、部会長なのに一番地位が低い。ぴえん。

活動内容とオンライン対応に関する気づき

前期の活動内容

- 量子化学に関するTwitter発信×2 (今期で完成、発信開始)
- 「身の回りに関する化学」の資料作成 (今期からスタート)
- 初心者がつまづきやすい「軌道・結合」の資料作成 (今期からスタート)
- 中島くんはOJT

→今期から新しく始まったテーマが多く、現在下調べの段階

オンライン対応について

- SLAへの教科書等の共有に時間がかかる、対面との明確な差
- 現在は学生に写真を撮ってもらい、Jamboardで共有が基本
- 1年生が全員使っているような教科書は電子書籍の利用も検討？

→教科書の共有に関して、改善の余地を探したい

- その他、自分の後ろに置いたホワイトボードを使い、解説した事例があった



2021年度後期 活動報告会資料 化学部会

発表・製作： 中島

確認：SLA化学部会一同



今期の活動内容

1

- SLAガイドブックの大幅な改稿

- 教科書の購入

クライン有機化学: 理学部化学科における指定教科書 (中島の代から)

反応機構など**基本的な部分の解説が充実**

「**自力で問題を解けるようにすること**」を重視

- 発信活動

Twitter: 化学B(熱化学)・化学C(有機化学)・身の回りの化学・導電性高分子

その他準備: 構造式描画ソフト(Chemdraw)の習熟・図の作成 など

対面利用再開・利用学生の傾向

2

- 基礎から確認したい層の利用も増加

対面利用になったことでこの層が立ち寄りやすくなったか

- 他科目と併せての利用 + リピーター が多い

対応内容

化学C (有機化学) 反応機構・分子の立体構造

自然科学総合実験 燃料電池のエネルギー効率についての考察

➡ 問題の部分より前の部分での躓きが影響する例多い

至る所に散りばめられた**基本的なTipsの積み重ね**が重要... どう気づかせるか？

ハンドブック 大幅な改定を行いました

3

- 1ページ → 2ページに増量

- 各分野のTipsを全面改訂・各分野の目標を捉えられるように改稿



発信の形

twitterで主に発信してきたが...

- ・レスポンスなく、届いているか不明
- ・オンラインで見る手間
- ・来季メンバーは不慣れ



発信の形の再検討

ポスター・ホワイトボード等、
その場で完結する形を検討
(ただし、授業形態がどうなるか)

(来季への課題)

必要なTipsにどう気づかせ、自力で解決できるようにするか

- 「基本的な理解(立体構造・電子の動きなど)」を正しく運用できているかを問う形の発信
- 主に図を用いた3-4択・正誤の説明問題



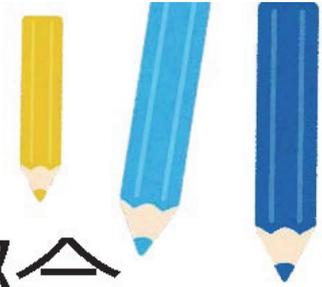
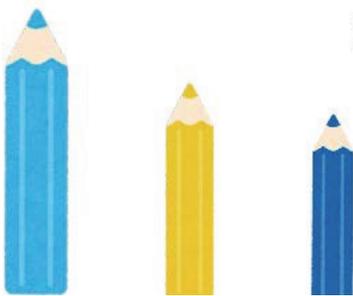
(自転車に自力で
乗れるように...) [1]

[1] D. R. Klein 「クライン有機化学」東京化学同人2017

三上先輩、中村先輩
ありがとうございました

ライティング部会

SLA2021年度前期活動報告会
2021年8月6日（金）



今期の傾向

◆主な利用者

- ・ 8割くらいが学部1年生
リピーターが多かった
- ・ その他は留学生
日本語チェック

※去年後期は留学生がほとんどだったため、利用層が逆転

◆主な対応内容

- ・ 授業の課題
(ミニットペーパー)
- ・ レポート課題
- ・ 研究計画書
(院試・奨学金の申請書)
- ・ 修士論文

対応中の気づき

◆学部一年生の二極化

- ・書けていない学生には対話によって導く
- ・書けている学生には論理を整えるようにしていく

◆レベルに合わせた対応の重要性

- ・書けていない学生には、ヒアリング（発散）
- ・ある程度書けている学生に対するアドバイス・質問（収束）

3

そのほかの気づき

◆東北大生の傾向

- ・多く調べるのは得意だが、取捨選択できない
- ・レポートを書いているうちに話が広がりすぎる、引用が長くなりがち
→「一文でいうとどんなことが言いたかった？」
「一番調べた中で印象に残ったことは？」

】といった声かけ

◆話しやすい雰囲気づくりの重要性

- ・利用者と同じ目線で、「フランクな」雰囲気が大事
- ・こちらのリアクションが分かりやすい声かけを使用

4

対応の成果：利用者にとって

◆利用者の課題

①参考文献や引用

②パラグラフィティ
ング

③問いの設定

◆利用者の課題に向けて

①適切な知識の習得

②論理的な文章構成

③学術的に有効な問いの作成

5

対応の成果：SLAにとって

◆オンライン資源の活用能力向上

・オンラインを活かし、情報資源（e.g. 佐藤先生の授業資料・『レポート指南書』）共有の取り組み

◆対話力・聞き取り力の向上

→利用者のアイデア・視点を広げる効果がある

・対話が重要、こちらから話題・質問を出す

・特に利用者が文章を書けていない場合、テーマを選んだ理由を聞き取り、「そのテーマの面白さ」を説明してもらう。

6

オンライン対応の振り返り

◆ メリット

Googleドキュメント共同編集・画面共有

- 問題点などを視覚的に共有できる
- 修正がしやすい

文字によるコミュニケーション増

- 認識ミスの減少
- 留学生が理解しやすい

情報提供のしやすさ

- レポートの書き方などの資料を共有しやすい。

◆ デメリット

非言語的コミュニケーションの不足

- 利用者より文章を見ている時間が長い
- 利用者のリアクションがわかりにくい

機材のトラブル

- 双方で突発的に生じる

ライティングはオンラインとの相性が良い。
対面が再開した場合も、パソコンを用いた対応を継続すると良いかもしれない。

部会活動

◆ 対応の客観的振り返り

模擬対応・OJT

- ・SLA同士の学びあい、話しかけ方や進め方を参考にできた
- ・OJT課題によって先輩SLAの経験やアドバイスを共有できた

ビデオリフレクション

- ・対応数の増加により参考となる動画が増え、スキルアップにつながった
- ・リピーターの増加→同じ利用者に対する対応の仕方の比較が可能

部会ミーティング

- ・利用者の傾向や対応の反省点を議論して今後の対応に活かした

今後の課題

◆学部1年生への対応充実のために

1年生向けTipsの作成

よく間違えるパターンなどのまとめ

問いの立て方・パラグラフィティングの紹介、情報の収集方法

1年生の対応マニュアルの作成

対応録画を振り返り、一年生のつまづくポイントを抽出

何をどこまでアドバイスをするかをチェックリスト化する

9

4

部会活動報告



ライティング部会

SLA2021年度後期活動報告会

2022年2月16日（水）

1

目次

-  **今期の傾向**
-  **部会活動の報告**
 - 留学生対応・文字起こし
 - Twitter発信・情報共有方法の改善
-  **今後に向けて**

2

今期の傾向

◆主な利用者

- ・ほとんどが留学生
リピーターも多い
 - ・ときどき学部1年生
- ※前期と利用層が逆転
ただし、例年通り

◆主な対応内容

- 《《留学生》》
 - ・修士論文
 - ・研究計画書
 - ・入試問題
 - ・先生へのメールの書き方
 - ・口頭試問の原稿
- 《学部生》
 - ・レポート課題

3

4

留学生対応

◆単なる「日本語チェック」とならないように

- ・基本は、日本語として問題の無い文章を目指す（ネイティブチェック）
 - 一方向的な添削ではなく、対話を重視
 - より簡単な言葉（和語）や英単語で説明や意図の確認、中国人には漢字で書いて説明
 - 一文を短くして説明する
- 利用者の要望に応じて
- 文法面で「何が」間違っているかだけでなく、「なぜ」間違っているのか説明

4

留学生対応 (増田)

◆先行研究からの学び

留学生にとって分かりにくい文法事項を確認。

実際の対応で非常に役に立った。(自他動詞、主部と末尾のねじれ等)

◆留学生対応の心構えを作成

対応する中での各SLAの気づきを集約。

今後、新規SLAに共有できる資料にしたい。

5

文字起こし (保泉・服部)

◆背景 対応録画データの有効活用

- ・1年生対応のためのTipsづくり
- ・対応のドキュメント化

◆方法 文字起こしデータの作成

- ・利用者 と SLA の対応の流れが分かるような資料作成を意識
- ・聞く ➡ 文字に起こす ➡ 構成や流れの整理

6

文字起こし（保泉・服部）

◆進捗

- ・今期8件の対応をdocument化
- ・複数回利用者を中心に作成（比較のため）

◆学び

- ・利用者にとって何が難しいのか
例) 間接引用の方法、問いと答えを対応させる、言葉の定義づけ
- ・対応者毎のアプローチの違いが見えてきた
例) 対応者A)利用者の授業の学習進度を丁寧に確認しながら対応
対応者B)出来る限り利用者の言いたかったことを詳しく聞き出す

す

7

4

Twitter発信（中野）

11月より週2回のペースで投稿

◆ **目的**：①ライティング部会の活動をより多くの学生に知ってもらう。

②部会としてTwitter発信を行う基礎作り。

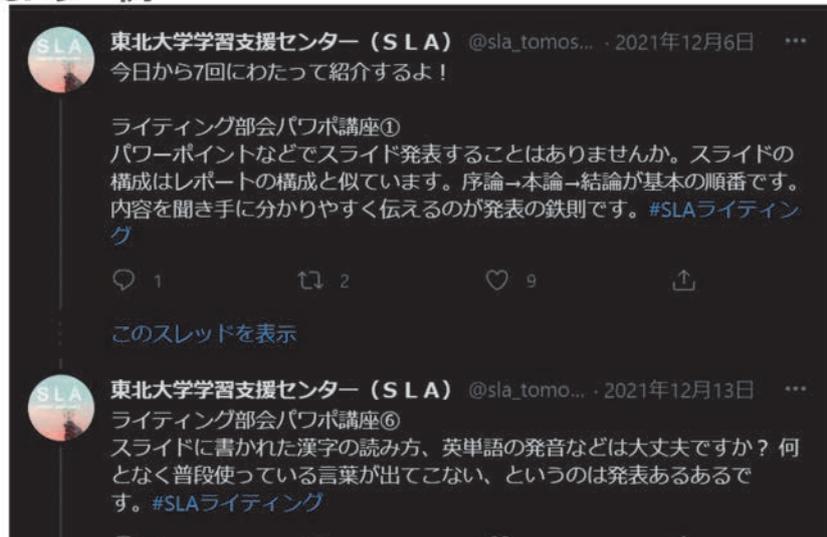
◆ **内容**：

- ・レポート指南書の案内
- ・レポートの書き方に関する豆知識
- ・PowerPointの作成方法
- ・読書ノートの作り方 etc.

8

Twitter発信 (中野)

Twitterの一例



9

情報共有方法の改善 (伊藤・相原)

「対応ふりかえり」と「部会作業引き継ぎ」の作成

◆目的

他の曜日の人と対応・部会作業について内容を共有するため。
(特に部会作業については引き継ぎする場がこれまでなかった)

◆内容

主に「曜日メンバーで話し合った対応の改善点」「作業内容」「質問・コメント」を記入してもらうようにした。

◆共通の工夫

・googleドキュメントで作成し共同編集を可能にしたため、より多くの情報が残せるようになった。

10

情報共有方法の改善（伊藤）

カルテの書き方の確認

◆目的

- ①リピーターの情報共有のため
- ②SLA自身が、指摘箇所、説明や修正方法のレパートリーを増やすため

◆内容

- ・「対応の流れ」について
 - 「画面の共有」や「今日の質問事項の確認」といった部分は省いて、特に指摘したポイントについて詳細に書くようにした。
- ・「対応内容」について
 - 利用者さんの加工なしの問題意識が知りたい。「今日はどんなところを見てほしいとかあるかな？」の回答をできるだけそのまま書くようにした。

11

4

部会活動報告

今後に向けて

◆様々な成果の活用

- ・ 対応の向上のためのTipsづくり、外部への発信、
SLA間の情報共有方法の改善など充実した部会作業の成果
↓
- ・ 実際の対応への応用、文字起こしデータの活用
Twitter発信の継続化、情報共有方法の周知

☆今期の成果を継続・発展させていく必要がある。

12

2021年度 前期英語部会報告

発表者：森坂・水野



内容

1. 今期の振り返り
 1. 利用傾向
 2. アクティビティ
 3. 発信
2. 課題と来期の目標



1. 利用傾向

ほぼ全てのコマが埋まる

利用者層 : 多様な利用者 (学部生~大学院生, 留学生, 社会人)
学部生50%, 大学院生40%程度

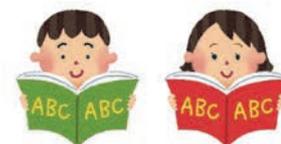
リピーター : 数回使ってくれる人はいたが, ヘビーユーザーは少なかった

利用内容 : 日常会話, 試験対策 (TOEFL, IELTS)



多様な利用者層とニーズ

1on1だからこそ対応できた面も



2021/8/6

英語部会

3/7

1.2. アクティビティ

体験ウィーク*と称し, 体験会を3回実施

33名参加 (そのうち**8人**が体験ウィークきっかけで参加)

他方で利用者同士の交流を求める声も



*体験ウィークとは: 新規利用者獲得強化ウィーク

複数人のSLAが参加し, 模擬対応を見たり, 質疑応答に答えたりする

2021/8/6

英語部会

4/7

1.3. 発信

フォロワー数増加！
100人弱→185人

ちょっとした英語フレーズを紹介
質問募集



2021/8/6

英語部会

5/7

2. 今後の課題と来期の目標

● 資格試験の対応について

現状：SLAによって対応可能な試験が異なる
対応用の教材がその場しのぎ

→他のSLAの対応ビデオを見て学ぶ/東北大学図書館の電子ブックを活用



図：東北大学図書館サービス「Maruzen ebook Library」

2021/8/6

英語部会

6/7

2. 今後の課題と来期の目標

- 対応の形式について
現状：1on1のみの対応でカフェはなし
→利用者同士の交流を促すイベントを開催
- 発信について
現状：空きコマがなく、発信が途切れがちに👤
→自分のシフト内に空きコマを作り、
Tweet案を予約投稿



2021 年度後期 活動報告

英語部会

内容

1. 今期の振り返り

- ・ 利用傾向
- ・ 発信 (Twitter)
- ・ イベント (END-OF-YEAR英会話CAFE)

2. 課題&来期での改善点

- ・ 対応について
- ・ コミュニティの作成

利用傾向

- ・利用者はリピーターが多い
- ・前年度後期と比べ、1on1の利用者数は増えた
- ・学年が幅広くなった
前年度後期と比べ、修士や学部2年生の数が多くなった
- ・年末後、利用者が減った印象があった

発信について

Twitterで発信活動

内容は様々

- ・実際の対応やイベントについて
- ・おすすめのドラマやYoutubeなど
→発音や、フレーズの参考
- ・IELTS Speaking に関することなど...



イベント（END-OF-YEAR英会話CAFE）

コロナのせいで対面できない

利用者同士の交流ができない

英会話のコミュニティーができていく

“Gather Town”を使おう！

イベント（END-OF-YEAR英会話CAFE）

“Gather Town”
を使った新たなイベント！

“Gather Town”とは...

- ・利用者はアバターになる
- ・アバター同士が近づいたらビデオ会話ができる

→疑似的に対面のようなことができる！



イベントの詳細

利用状況：

- ・日本人のリピーターが多く利用
- ・新規の留学生も！
- ・新規利用者いたが少ない

「利用者同士のコミュニティを作る機会」

達成できた！

But...

- ・"Gather Town"で問題が起きた時の対応
(テクニカルプロブレム)
- ・時間配分やグループ分けの問題

様々な利用者同士の交流

↓

→

定期的にお題を出し、話題の合う人同士で話す

課題・来期での改善点

イベントに関しては
言ってしまいましたが・・・

対応の改善

利用者に

「どうやって英語を勉強している？」
と、よく聞かれる。



SLAメンバー同士、
それぞれがどのように勉強しているか
共有する！

e.g.)どのように単語を
覚えているか等



コミュニティの作成

- ・ イベントを行う
→ 事前のアンケート
(どのような内容にするか)
- ・ 英語について、
気軽に質問したい！

利用者と比較的、密接な繋がり



コミュニティの作成！
Lineのオープンチャット、yammer, slack等

But...

- ・ Twitterとの競合性
- ・ 管理の手間、等

要検討！

2021年度 日本語SLA前期活動報告

日本語SLA: 鏡耀子 松谷凌雅 小川晴生
江村玲 秋山千皓

目次

- 利用状況
- 今期の目標
- 成果
- 課題
- 後期に向けて

利用状況

①利用者の傾向

- ・レベル：中～上級（日本語だけで会話できる）レベルの利用者が多い。
- ・出身：利用者の出身地は中国が多く、中には中国からのアクセスもあった。他にはフランス、ベトナム、タイ、インドネシア、インド、フィジー、台湾、パレスチナ、イランの出身者がいた。
- ・どこで知ったか：学務情報システムが多いが、友人や指導教員、日本語の授業の先生の紹介で知ったという人も何人か見られた（佐藤先生経由で留学生課の先生方にも案内をお願いしていた）。
- ・新規orリピーター：リピーターがほとんど。学務情報システムに広報を流すと新規利用者が増える傾向にある。

②実施内容

- ・中級以上：日常会話、面接練習、申請書日本語チェック（内容面はライティング部会へ）、授業内容の予復習、日本語に関する疑問の解決、イベント準備
- ・初級：日常会話、自己紹介の練習、ネット上の教材を使った学習
- ・「間違いは積極的に直してほしい」という利用者がほとんど→チャットを使って指摘

③その他

- ・始めのうちは予約枠がほぼ埋まっていたが、次第に空きが出るようになった。
- ・金曜にイベントを開始（詳細は後述）。

今期の目標

【広報】日本語SLAの情報発信（入口）

- ・利用が中上級者に偏っているため、初級者の獲得をしたい
- ・リピーターが利用の大半を占めるため、新規の開拓をしたい
- ・ゆくゆくは日本語部会でのSNS運用も

【対応】対応の質の向上

- ・カルテによる引継ぎの充実
- ・前年度作成した補足資料の有効活用
- ・ビデオリフレクションの機会も持つ

【イベント】上級者がSLAから卒業できるようなイベント（出口）

- ・上級者は日常会話に問題がなく、通常の1on1の対応のマンネリ化が進んでいるため
- ・上級者が日本人との繋がりがりや横の繋がりを作ることのできる場が欲しい

成果

【広報】紹介動画の作成

- ・日本語会話の紹介動画を作成した (<https://youtu.be/41wvhhbcEPni>)。
- ・YouTubeに流すことで、誰でもいつでも日本語会話について知ることができる。
- ・留学生のための説明会や学務情報のメールで拡散した。

【対応】メンバーの連携強化

- ・昨年の引継ぎ事項として、曜日間・メンバー間の連携を強化した。
- ・カルテに「引継ぎ事項」の項目を増やすことで、利用者の特徴や次回やってほしいことなどを共有した。
例：今回覚えた表現の確認を次回で行ってください、ドライブが趣味だそうなのでアイスブレイクのトピックとして使ってください
- ・「共有ノート」で利用者からの質問を共有した。
うまく答えられなかった質問を共有ノートに記載→誰かが空き時間に回答を作成→メンバー全員で共有
例：「だんだん」「徐々に」「どンドン」はどのように使い分けたらよいのか。

【イベント】留学生と国内学生の交流イベントの開催

- ・昨年の引継ぎ事項だったイベントとして、「SLA文化カフェ～日本語で話そう！世界のこと・日本のこと～」を開催した。
- ・上級者がSLAを卒業し自立することが目的。
- ・留学生と国内学生がお互いの文化について話し合う企画。
- ・計4回開催した。(5/7, 5/28, 6/18, 7/9)
- ・第1回：国内学生3名、留学生2名、SLA1名のグループで「春と言えば？」をテーマに話し合う。
- ・第2-4回：国内学生と留学生が1対1で話し合う。
- ・参加者の反応：イベントを楽しんでくれた人が多い。コロナ禍で交流が少ない中、留学生／国内学生ともに貴重な機会となっている様子。

課題

【広報】新規利用者の少なさ

- ・木金ともに新規利用者の数が少ない。
- ・学務情報システムに広報を流すと増える傾向にあるが、広報を見ていない人が少なくない可能性もある。
- ・留学生の需要に対して利用枠が少ないことも原因か（現在：木6枠、金9枠）。
- ・利用に対しての心理的ハードルが高く、なかなか利用してくれない人もいるのではないか。
- ・一方で、イベントへの申込では1on1を利用していない留学生も多く見られる。なぜ？

【対応】リピーター対応のマンネリ化の防止

- ・中上級者が多いため、毎回のセッションが日常会話になってしまう。
- ・一方で、SLA側に上級者向けのアクティビティのストックがあるわけでもない。
- ・あるセッションで急に新しいアクティビティを導入しても利用者が戸惑ってしまう。

【イベント】イベント運営の体制強化

- ・連絡なしに当日来ない参加者が必ず出るため、留学生と国内学生の比率が1:1にならない場合は3人班を作ることにしているが、比率が悪すぎると2回連続で3人班になってしまう参加者が出てしまう。
- ・事前に自分の国の紹介スライドやクイズを作成して参加してくれる熱心な参加者がいるが、自分が話すことに夢中になるあまり、一方的なコミュニケーションになってしまう参加者が見られた。
- ・メールの送信やキャンセル受付など、佐藤先生にお願いしている部分が多くある。

後期に向けて

①新規利用者の獲得

- ・初回利用にハードルを感じる学生向けのキャンペーンの実施
EX) ・短時間の日本語に関するワークショップの開催
・日本語学習コンテンツの動画配信
- ・Twitter広報の始動

②リピーターに対するマンネリ化の解消

- ・リピーターに対する担当SLAを変化させてみる
- ・リピーター向けのトピックポータル作成
EX) ・オンライン上の学術系コンテンツ共有
・ディベートトピック集など

③文化カフェの改善

- ・国内学生の参加者数の増加させる
- ・3人グループ内での発言機会の平等化
- ・学生による自立的なイベント運営
(参加者メール送信、キャンセル受付、ブレイクアウトルーム操作)

2021年度 日本語SLA後期活動報告

日本語SLA
秋山千皓 江村玲
小川晴生 松谷凌雅

目次

- 利用状況
- 今期の目標
- 成果
- 課題
- 来年度に向けて

利用状況

1on1

○利用者の傾向

- ・木曜日は中~上級者、金曜日は初~上級者の利用がある。
- ・中国出身の利用者、リピーターが多い。
- ・学務情報システムでSLAを知った人が多い。

○実施内容

- ・日常会話、発音練習、面接練習、質問対応、ディスカッション、ロールプレイ
- ・チャットを活用して間違いの指摘や例文の提示する。

○その他

- ・日本に入国できてない留学生も利用した。
- ・ Semester後半になると予約数が減少した。
- ・木曜と金曜で予約数に差がある次期もあった。

3

利用状況

日本語ワークショップ

- ・3(+1)回(12/2、12/9、2/10(+2/21))実施。
- ・参加者はそれぞれ3人、6人、6人(予約数は7人、6人、10人)
- ・実施内容：痛みのオノマトペ、天気のおノマトペ
- ・参加者の傾向：中級以上上級未満の学生が多い。回によって差あり。

文化カフェ

- ・3回(10/29、12/10、2/10)実施。
- ・参加者はそれぞれ11人、12人、6人(予約数は15人、12人、10人)
- ・実施内容：国内学生と留学生の1on1
- ・参加者の傾向：留学生の顔ぶれは変わるが、国内学生にはリピーターもいる。

4

今期の目標

【広報】日本語SLAの情報発信（入口）

- ・利用が中上級者に偏っているため、初級者の獲得をしたい
- ・リピーターが利用の大半を占めるため、新規の開拓をしたい
- ・ゆくゆくは日本語部会でのSNS運用も

【対応】対応の質の向上

- ・カルテによる引継ぎの充実
- ・前年度作成した補足資料の有効活用
- ・ビデオフレクションの機会も持つ

【イベント】上級者がSLAから卒業できるようなイベント（出口）

- ・上級者は日常会話に問題がなく、通常の1on1の対応のマンネリ化が進んでいるため、上級者が日本人との繋がりが横の繋がりを作ることのできる場が欲しい

5

成果

【広報】ワークショップの開催

- ・ワークショップを開催したことで1on1を利用しない層にも日本語SLAを知ってもらうことができた。

【対応】マンネリ化の解消

- ・複数回利用してくれる方が多かった。マンネリ化を解消できた結果ではないかと思う。
- ・難しい表現を意図的に混ぜたり、話すスピードを上げたりして、毎回のレベルアップを目指した。
- ・ときどき担当のSLAを替えた。
- ・初回の聞き取りを十分に行うことで、留学生の目的に応じた対応ができた。

【イベント】「文化カフェ」と「日本語ミニワークショップ」

文化カフェ

- ・前期に引き続き、今期も継続して開催できた。
- ・LINEを交換する参加者がいた（前期はいなかった）。
- 「ラーニングコミュニティの形成」が出来てきたのではないか。

日本語ミニワークショップ

- ・「日本語を深く学ぶ」という、1on1や文化カフェのコミュニケーションを目的としたものとは別のニーズを満たすことができた。

6

課題

【広報】

- ・ SNSでの広報の検討・準備の進展がなかった。
- 学務での広報以外に留学生との接点がない。
- ・ イベントと1on1で利用者層が異なっており、イベント間の移動はほとんど見られない。
- イベント利用と1on1利用との接続が課題になる。

【対応】

- ・ ビデオリフレクションができていない。
- ・ SLAの対応改善のための資料(対応ポータル、利用者アンケート)を活用できていない。
- ・ 1on1利用者のアンケートから得られる情報を部会活動とリンクさせづらい。

【イベント】

日本語ワークショップ

- ・ 参加者のレベルが当日までわからないため、当日の柔軟な対応が求められる。
- ・ 適切な参加人数、適切な広報が定まっていない。

文化カフェ

- ・ 国内学生が集まらなくなっている(延長戦ではGLC経由でも広報を流したが集まらなかった)。
- ・ 運営メンバーが前期後期で一緒に、運営方法がマニュアル化されていない。

7

来年度に向けて

【広報】

- ①既存利用者への積極的な広報→1on1と各種イベント間の連携強化
 - ・ 利用者メールアドレスを作成し、イベント情報や空いている予約枠についてお知らせする。
- ②留学生に特化した広報
 - ・ 留学生の利用するメーリスやLINEグループに広報を行う。

【対応】

- ①利用者アンケートの改善
 - ・ 広報・対応・イベントの改善・企画につながる情報が収集できるよう質問項目を追加する。
EX)希望の曜日、担当変更希望、SNSの利用状況、学びたいテーマ、日本語学習の悩み etc...
- ②リフレクションの強化
 - ・ メンバーの対応を必ずリフレクションする←日本語部会用のリフレクションシートの作成
 - ・ チームリフレクションの確認項目を改善+互いの曜日のチームリフレクションを対応前にチェックする。

【イベント】

- ①日本語ワークショップ
 - ・ 運営の安定化（リピーターの獲得、継続的な開催、運営方法の確率）を目指す。
 - ・ 留学生側のニーズをテーマに取り入れる。
- ②文化カフェ
 - ・ 引き継ぎ資料・マニュアルの作成する。
 - ・ 1on1利用者への利用を促進する。
 - ・ 国際交流に関わる日本人学生への広報を強化する。

8



目次

1. かがえるソファ
 - 概要
 - 成果と課題
2. かがえるソファ+
3. かがえるソファD
4. 交流企画
5. 音楽・アート系企画
6. 運営改善
7. 来期に向けて

1. かんがえるソファ

(渡辺)

SLAのファシリテーションのもと、
参加者が**身近なテーマ**について話し合い、深めていく場

- ・開催：90分、オンライン開催
- ・定員：5月は5名、6-7月は8名



かんがえるソファ = 議論ではなく、「対話」



身近な「あたりまえ」に対する疑問

自分なりに考え、表現する力/自信



異なる視座に対する気づき

自身の価値観・世界観の変容



2021年度前期SLA活動報告会（企画SLA）

3

前期かんがえるソファ(+とDも含む)の活動

開催日	テーマ	参加者数	司会係	記録係
5月14日（水）	高校の部活と大学のサークルってどう違う？	5	高野	加茂野
5月17日（木）	高校までの勉強って、 何のためにあったんだろう？	5	西塚	加藤
5月19日（水）	大学で得られるものって何だろう？	4	加茂野	飯田
5月25日（火）	大学4年生のとき、私たちは何を していると思う？	5	加藤	西塚
5月28日（金）	オンラインで友達 は作れるか？	5	飯田	高野
6月4日（金）	頑張るって どういうこと？	6	高野	西塚
6月8日（木）	信じるって どういうこと？	7	西塚	加藤
6月23日（金）	環境って 何だろう？	5	加藤	飯田
6月28日（月）	ジェンダーのステレオタイプを 考える（+）	7	加茂野	西塚
7月2日（木）	挫折した ことってある？	8	高野	加茂野
7月7日（水）	個性って なんだろう？（D）	5	須田	飯田
7月14日（水）	学校の制服を 廃止するべきか？（D）	2	飯田	加藤
7月30日（金）	信じるって どういうこと？	6	西塚	須田

2021年度前期SLA活動報告会（企画SLA）

4

当日のタイムテーブル



90分

6月の告知ポスター
(須田作成)

説明 (15分)
(60分)
振り返り (15分)

説明 (15分)

Zoom 画面

かんがえるソファ

お願い@Zoom

1. 動画・撮影・スクリーンは控えてください
2. Zoomで表示される名前を変更可能
→ 読み方がわかるようにしていただくことも可能です
3. 各自でメモができるご準備をお願いします

タイム・テーブル

自由に話し合い、思考を深める場

1. かんがえるソファの説明 (5分)
→ グラウンド・ルール
2. アイズプレイク (10分)
3. かんがえる時間 (10分)
4. ふりかえり (10分)
5. クローキング (10分)
→ アンケートの依頼、英語の朗読予定

グラウンド・ルール

- ① お互いの名前を呼び合おう!
- ② 発言するときは挙手しよう!
- ③ 仲間の発言をよく聴こう!
- ④ 分からないことは何でも質問しよう!
- ⑤ 未完成のアイデアを積極的共有しよう!
- ⑥ 1つのアイデアをみんなで吟味しよう!

今日のテーマ

あなたは大人ですか?

かんがえる時間

振り返り (15分)

今月のお知らせ

参加の申し込みは学務情報システムやイベント案内メール、SLAのTwitterなどで告知します

1月8日(金)16:30-18:00
1月19日(金)16:30-18:00
1月19日(土)14:40-16:10
1月26日(月)16:30-18:00

学習支援センター(SLA)の紹介

SLAでは様々な学びのサポートを行っています!

- ・ 理系科目の質問対応(物理・数学・化学)
- ・ 英会話、日本語会話
- ・ ライティング(レポート作成支援)

アンケートのお願い

- ・ メールアドレスにアンケートを送信します
- ・ 質問、感想は随時ブログにアップします
- ・ 匿名でも構いませんので、ぜひ取り組んでください!

2021年度前期SLA活動報告会 (企画SLA) 5

アンケート結果(+とDを除く)

(西塚)

1. 参加者・申込者

- ・ 参加者数 = のべ56名
- ・ 申込者数 = のべ71名、B1/51名、B2-4/12名、M&D/8名

2. 参加者アンケート (1~5点、満足度は100点満点)

【前期・後期共通の質問項目】

項目	期待した内容	発言の機会	司会の進め方	時間の長さ	満足度
平均(今期)	4.50	4.67	4.55	4.45	90.73
回答数(#)	42	42	42	42	41
平均(2020年度)	3.98	4.43	4.21	4.23	85.81
回答数(#)	121	120	121	51	191

【学習成果を尋ねる質問項目】

項目	新しい見方・考え方を 得ることができた	自分の考えが変わった	テーマについて、 じっくり考えられた	考えたことが、今後の生活で 役立つと思う
平均(今期)	4.64	4.33	4.71	4.60
回答数(#)	42	42	42	42
平均(2020年度)	4.52	4.15	4.52	4.21
回答数(#)	51	51	51	51

2021年度前期SLA活動報告会 (企画SLA) 6

成果と課題

(西塚)

1. 成果

デザイン面

- 担当メンバーが増えたことで、**余裕をもって準備が可能**に
- **過去テーマの再利用も有効**だと分かった
- **イベント終了後のフリータイム**は交流の時間として良かった

対話の進行面

- 記録係も対話に積極的に関わるようになった
- 問いかけの種類が増え、考える視点が増えた
- 授業のために参加していた学生でも新たな発見が得られる場を提供できた

2. 課題

- 定期的な**検討会**の開催（過去回を題材に問いの出し方やまとめ方等について）
- シミュレーション（予想シナリオ）について、**全員で助言や意見出し**する

2. かんがえるソファ+

(加茂野)



告知ポスター（須田作成）

1. 内容

最近話題になったニュースや社会問題を取り上げ、参加者同士で深く対話しながら、その本質的な問題と解決策を考察する

2. 第1回開催

開催日：2021年6月28日（月）16:30-18:00

テーマ：**ジェンダーのステレオタイプについて考えよう**

- 参加者=7名
- 申込者=11名（B1/2名、B2-4/2名、研究生/1名、M&D/6名）

3. 成果

- ・ 新しい参加者層の獲得が見込めた（学部上級生や院生など）
- ・ 参加者の社会問題における興味関心を広げることができた
- ・ 現代社会の可能性とそれに対して若者ができることを考えられた
- ・ 社会的に問題となっているトピックの教養を培うことができた

4. 課題

- ・ 特定の記事や問題を無理に扱うのではなく、アカデミックなトピックを設定する方が話しやすい可能性がある
- 第1回は導入として記事や社会問題を用意したが、その**記事に関係なく色々な議論が深まった**ため
- ・ 準備やシミュレーションは念入りに行う必要がある
- 扱うトピックや参加者によって**ファシリタの力量が試される**ため

3. かんがえるソファD

(飯田)

1. 目的

- ディスカッションに関するニーズに応答
- 新規利用者層の獲得
- かんがえるソファの可能性を広げる

2. 第1回開催

かんがえるソファ編 (7/7)
「個性ってなんだろう？」

> ディスカッションとも関連するテーマ
> 対話の軌跡をまとめ、
ディスカッション編の参加者に事前共有

ディスカッション編 (7/14)
「学校の制服は廃止すべきか」

> いずれの立場で発言してもOK
> 意見の偏りを防ぐため、SLAも参加
> 論点を提示して、ディスカッションを整理

3. 課題

- テーマ設定の難しさ (関連のあるテーマか・意見が偏らないテーマか)
- 論点を予め限定してしまうことで、発言が難しくなってしまう
- 意見が偏らないようにするにはどのようにすべきかについて、要検討

4. 交流企画

(飯田)

1. 目的

- SLA個人の人脈獲得
- 部会間の円滑なコミュニケーション
- 部会間活動の活発化

2. 現状

主にオンライン交流会

➔ 交流機会の増加/新たな交流企画の創出へ

3. 企画検討

- | | |
|-------------------|--------------------|
| ・ 全体Slack | ➔ 活用の余地があるかは部会による |
| ・ SLA内かんがえるソファ | ➔ SLA全体のファシリレベルの向上 |
| ・ ドキュメント共有による交換日記 | ➔ ノルマ化し負担になるおそれ |
| ・ 映画/音楽鑑賞会 | ➔ 同じ趣味で集まれる |
| ・ 研究紹介 | ➔ 分野を超えて楽しめるか？ |

4. アンケート実施 ⇒ 「押しプレ飲み」開催検討

8/6 (金) 20:00~

5. 音楽・アート系企画

(渡辺・須田)

1. 音楽系企画

- 昨年度提案した音楽系企画（あるテーマについて音楽を通して新たな視点を提供し、それについてのワークショップを行うという企画）を、部会メンバーのアドバイスをもとに再度検討。「歌詞のある曲を、歌詞について音楽的文脈に基づいて対話をしながら解釈を深めていく」という企画の内容に変更。
- アドバイスをもとに、後期は具体的な部分をさらに詰めていく

2. アート系企画

- 昨年度提案したオンライン開催のアート系企画（その時々を季節を感じられるものを絵や文章、写真など様々な形で持ち寄り、それを基に共同でアートを作成するというもの）を今期さらに詰めていく予定だったが思うように進められなかった。

6. 運営改善

(加茂野・渡邊)

1. Slackの導入

- ・課題：オンライン化による業務進行の煩雑さ・不透明さ
- ・目的：業務の生産性向上、部会内での交流促進
- ・施策：Slackを導入し、それぞれのチームの状況を誰でも見られるように
- ・結果：業務の生産性向上◎/交流促進△

2. Twitterアカウントの開設 (@sla_event)

- ・目的：かんがえるソファやイベントなどの告知を迅速かつ効率的に行う
- ・施策：企画部会独自のTwitterを作成しSNSによる参加の呼び込みに尽力
- ・結果：SNS使用層にアプローチできるが、フォロワーを増やす努力が必要

3. その他

- ・新人用マニュアルの作成（勤務方法、作業フロー等）
- ・MTGの司会/議事録を持ち回り制へ

7. 来期に向けて

(西塚)

1. 企画部会の中での関係づくり

- チームの士気向上→Slackでのメンバー間交流 (randomで雑談、#ご飯部で投稿等)

2. 各種企画の実施

- 音楽/アート系企画、交流企画、かんがえるソファDの検討 & (再) 実施

3. 緩やかなチーム制へ

- 責任の分散 (各種企画の担当固定) による他人任せ & 他の企画に関わりにくい
→Slackの各種企画チャンネルを頻繁に更新し、全員が全体の動きを把握
→シミュレーションへのコメント & 研修 (検討) 会の開催 (かんがえるソファ)



企画SLA 2021年度後期活動報告

飯田司 須田華 渡辺楓 渡邊早紀 福士海伊 加藤嵩大

2021年度SLA活動報告会（企画SLA）

1

目次

1. かんがえるソファ
概要
今期のテーマ
成果と課題
1. かんがえるソファ +
2. 交流企画
3. 新企画の検討
4. 美術館企画
5. 来期に向けて

2021年度SLA活動報告会（企画SLA）

2

1. かんがえるソファ(概要)

(福士)

SLAのファシリテーションのもと、
参加者が**身近なテーマ**について話し合い、
深めていく場



かんがえるソファ = 議論ではなく、「対話」



身近な「あたりまえ」に対する疑問

自分なりに考え、表現する力/自信



異なる視座に対する気づき

自身の価値観・世界観の変容



2021年度SLA活動報告会 (企画SLA)

3

1. かんがえるソファ(テーマ)

(福士)

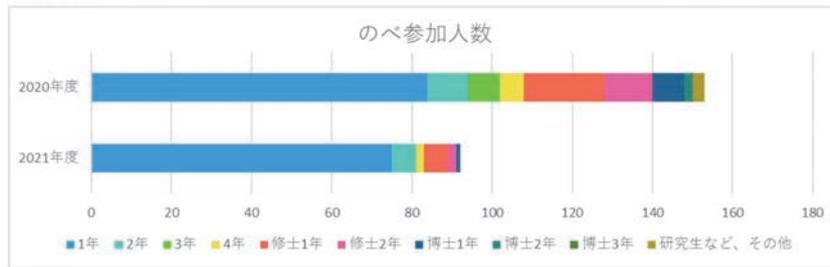
開催日	テーマ	参加者数	司会係	記録係
10月27日(水)	コミュカって何?	3	須田	飯田
11月16日(火)	主体性って何だろう	6	飯田	加藤
11月24日(水)	青春って何だろう	6	加藤	須田
11月29日(月)	成長ってなに?	7	須田	福士
12月8日(水)	「普通」ってどういうこと?	4	福士	飯田
12月16日(木)	冷たいって何だろう?	2	加藤	福士
12月20日(月)	新型コロナウイルスのこれから(+) ーワクチン接種の着地点ー	5	飯田	加藤
1月6日(木)	アイドルについて考える	4	福士	須田
1月12日(水)	愛について考える	5	加藤	飯田
1月18日(火)	嘘についてかんがえる	3	飯田	加藤

2021年度SLA活動報告会 (企画SLA)

4

1. かんがえるソファ(参加者アンケート) (福士)

1. 参加者数



2. 満足度

2020年度

85.9

前期平均 86.1 / 後期平均 85.5

2021年度

91.0

前期平均 91.1 / 後期平均 90.9

1. かんがえるソファ(成果と課題) (飯田)

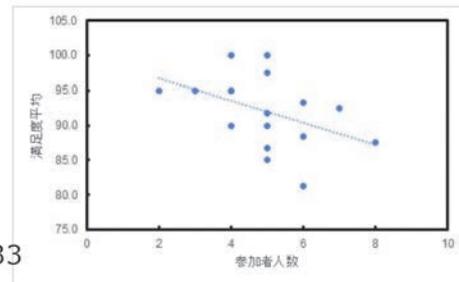
1. 成果

- ・ 申込フォームの自動化 / 月毎の申込回数のコントロール
- ・ 複数人でのシミュレーション検討 / ふり返し
- ・ 参加者ファシリテーションの実験

2. 課題

○参加者アンケートより

- ・ 参加者増加に伴う満足度低下
→ タイムマネジメントの工夫や時間延長
- ・ 各回のクオリティの維持
「期待していた内容」初回4.53 / リピーター4.33
→ 参加者人数・学年に合わせたファシリテーションの工夫



○ふり返しフォームより

- ・ 参加者相互の対話の不足
- ・ 留学生参加者への対応 → 個別メール対応

○その他

- ・ ファシリテーションに関する研修時間 (ビデオリフレクション等) の不足
- ・ 参加者のグラフィック参加に関する検討

2. かんがえるソファ+

(飯田)

1. 概要

話題になったニュースや社会問題を取り上げ、参加者同士で深く対話しながら、その本質的な問題と解決策を考察する

2. 第2回開催

12月20日(月) 16:20-17:40 @M204 (参加者 5名)
「新型コロナウイルスのこれからーワクチン接種の着地点ー」

3. 成果

- ・文系/理系分野に偏らないテーマ設定
- ・+とDの合併による開催主旨の確認と共有
→活発な意見対立よりも参加者個人の問題意識の醸成と私見の確立に重点を置く

4. 課題

- ・意見の偏りから、個別意見の対比に終始してしまう
より高度な対話のため、意見のすり合わせと昇華に努力が必要
→参加者層の拡大(=より多様な意見の獲得)を目指す/
より身近な話題を設定する/異なる立場からの意見も可能にする
- ・参加者相互の対話を活発化
→ファシリやグラフィックに依存しない対話
参加者自身が資料を集め提示する

2021年度SLA活動報告会(企画SLA)

7

3. 交流企画

(渡辺・渡邊)

1. 目的

- SLAメンバー間でつながりを作り、学びの交流を図ること。
- SLAメンバーの居場所、すなわち個人が安心感をもって活躍できる場を作ること。

2. 実際の活動・現状

前半は企画部会以外のメンバーにインタビューを行い、メンバーどうし学びを得られるような交流企画のアイデアについて聞き取りを行った。



- 学びの交流より先に、仲良くなることを目的とした交流を実現すべき。
- 学びの交流に自分から積極的に参加したいとは思わない。
という声が挙がった。

→学びの交流より先に、お互いが容易に交流できるプラットフォーム作りを優先して行うべきと判断。SLA全体ラインの作成(作成中)。

3. 今後の課題

プラットフォーム作成し終わったのち、いかにコミュニケーションを促進していくか要検討。

2021年度SLA活動報告会(企画SLA)

8

4. 新企画の検討

(渡辺・渡邊)

1. プレゼンテーション企画

● 目的

- 参加者方に周囲の人々に学習成果を伝える術を上達させる。
- コロナの影響で減少した「思いもよらない分野との出会い」を学生に提供する。

● 内容

学生の登壇者1人に自分の学んでいる分野や興味のある事柄について、15分程度で発表してもらう。

←対面での交流が盛んになった状況において、集客できるか心許ないという意見が挙がった。



2. ブレインストーミング企画（検討中）

● 目的

- どんどんアイデアを出すブレインストーミングを楽しむ場所を提供する。
- 参加者のコミュニケーション能力を向上させる。

● 内容

「SLAに人をよぶには？」などテーマを設定して、それについてどんどん意見出しをしていく。

● 今後の課題

- 楽しむ場所を提供するだけでなく何か学びを得てもらう必要がある。この企画を通して参加者が学びを得られるようテーマ設定など検討する必要がある。

5. 美術館企画

(須田)

美術鑑賞ってなんか難しそう...という方ぜひ!

美術館の楽しみ方 教えます!

2月9日(水) 13:30-15:00

定員 10名程度

対象 全学部・全学年

Point

美術鑑賞ってなんだか難しそう... という人に向けて取っ掛かりを作る

①学芸員の方から見方など簡単にレクチャーを受ける
②実際に展示を見て回る
③感じたこと、考えたことを共有

進捗

2/9に開催予定だったが、BCPLレベル上昇により延期→4月頃に開催予定

気が向いたらぜひ!

6. 来期に向けて

(加藤)

1. かんがえるソファの継続

- ・来年度も、かんがえるソファを継続して行う
→今年度の反省を活かして、より良いソファを！
- ・新入生向けのかんがえるソファの実施

2. SLA内の交流の促進

- ・LINEグループの本格運用
→意図的に連絡手段として活用するなど

3. 美術館企画の実施

- ・4月頃に開催予定

4. 新企画の実施

- ・今年度、検討した企画を実施する
→企画SLA内で、新企画へのスタンスを統一する

5. SLA 卒業プレゼンテーション

2021年度後期セメスター活動報告会 卒業プレゼン

2022年2月16日
化学部会

三上 進一



2022.02.16 SLA後期活動報告会 卒業プレゼン ©Center for Learning Support(SLA Support) Tohoku University

皆さんはどんなことを考えて学生対応に臨んでいますか？

高校→教科・科目型学習 (受動的)

大学→上記+課題解決型学習 (能動的)

⇒両者の差を埋める(学びの転換)をサポートするのがSLAの役割

学生対応の中でこの役割をしっかりと果たすためには？



2022.02.16 SLA後期活動報告会 卒業プレゼン ©Center for Learning Support(SLA Support) Tohoku University

5年間で見出した三上なりの答え

学生はどうしても問題の解決を求めがち(当然)

⇒時間の許す限り学生が求める課題解決に努める
(信頼の獲得)

その上で…

学生が自力で課題解決を行うために、分からない問題にどう立ち向かうのか(考え方・調べ方)を先輩学習者の姿として暗に見せる。



理想は学生の非リピート化



2022.02.16 SLA後期活動報告会 卒業プレゼン ©Center for Learning Support(SLA Support) Tohoku University

何かを考えて学習支援にあたろう！

何を考えるのかは各自の自由！！

～長い間お世話になりました～



2022.02.16 SLA後期活動報告会 卒業プレゼン ©Center for Learning Support(SLA Support) Tohoku University

卒業プレゼン

～対応時に心掛けていたこと～

英語部会 水野彩子

対応あるある



取り調べになる

対応時心がけていたこと



自己開示をする

SLAが学生さんにとって一つの居場所になるといいなと思っています。

2021年度後期セメスター活動報告会 SLAで得られるもの

2022年2月16日

佐藤俊

2022.02.16 SLA後期活動報告会 卒業プレゼン ©Center for Learning Support(SLA Support) Tohoku university

①多様な人脈

- 他学部の修士/博士課程の新しい知り合いを作れる
 - 研究室に入ると基本的にはラボ内部の人間関係だけ
 - SLAほど修士以上の学年の人と新しく知り合いになれる空間は東北大には多分存在しない
 - SLA同士の交流の機会には(オンラインでかなり減ってしまったけど...)は是非参加して欲しい

2022.02.16 SLA後期活動報告会 卒業プレゼン ©Center for Learning Support(SLA Support) Tohoku university

2

②初対面の人と話す力

- 話したことない人との1対1会話はレアイベント
 - SLAではこれがほぼ毎週発生
 - 初対面の人と和やかに会話できる能力はどこでも生きる
 - ただ勉強を教えるだけでなくSLA側も「ともそだち」してください

2022.02.16 SLA後期活動報告会 卒業プレゼン ©Center for Learning Support(SLA Support) Tohoku university

3

2021年度後期セメスター活動報告会
卒業プレゼン
～SLAにおける交流～

2022年2月16日

相原貴次

ライティング部会の「ハブ」として

◇他のメンバーの曜日に乱入
「○○はこれをしてました」
「××はこう言ってました」

→仲介役（「ハブ」）として、
部会間の情報共有に一役？

☆今期、「部会作業引き継ぎ」として結実

2022.02.16 SLA後期活動報告会 卒業プレゼン ©Center for Learning Support(SLA Support), Tohoku University

2022.02.16 SLA後期活動報告会 卒業プレゼン ©Center for Learning Support(SLA Support), Tohoku University

1

レクリエーション部の部長として

◇実績一覧

- ・謎解きゲーム（クリアならず…）
- ・オンライン人狼会（過半数がOB）
- ・クイズ大会（縣^{さん}の無双）
- ・White Elephant（発案のみ）
- ・ライブ鑑賞（中島^{さん}を人質に）

研究生生活
だけでは
できない交流

いい刺激に！

- ・休憩時間の雑談
（研究の話、本の紹介^{など}）



さいごに

各人各自有過活物件（人それぞれに生きがいがある）。
以酒為樂者、以酒為生、如某是也。以色為樂者、以色為命、如某是也。
…（中略）…

（余）専以良友為生。【専ら良友を以て生と為すのみ。】

故有之則樂、舍之則憂。

（（私は）ただ良き友を生きがいとするだけだ。だから良き友がいれば
喜び、いなければ悲しむ。）明・李贄『焚書』卷二「答周友山」

対応・業務をしっかりとこなした上で…

SLAメンバー・スタッフとの
交流を楽しんでください！！！！

2022.02.16 SLA後期活動報告会 卒業プレゼン ©Center for Learning Support(SLA Support), Tohoku University

2022.02.16 SLA後期活動報告会 卒業プレゼン ©Center for Learning Support(SLA Support), Tohoku University

3

5

SLA卒業プレゼンテーション

2021年度後期セメスター活動報告会 卒業プレゼン

中村 祐輝 (化学部会・M2)

おことわり: 深夜テンションと共に作成してしまったので、クオリティには期待しないでください

まずは自己紹介がてら

なかむら (中村 祐輝)

工学部→環境 修士二年

- アニメと甘い物と三上さんが大好き
- 最近だと呪術廻戦・進撃の巨人・鬼滅とか³
- SLA卒業を前日に控え、堀越さんに名前を忘れられる←new!!

³ 鬼滅以外は原作を読んでいないためにネタバレされがち。ネタバレ、ダメ、絶対。



言い訳その1: SLA同士の交流が減った分、部会メンバーを知って欲しい

言い訳その2: 凄い事はきっと偉大な先輩方が言ってくれる(他力本願)

言い訳その3: そもそも有意義なネタがこれ位しか思いつかなかった....

¹ これはあくまで個人の感想であり、事実を反映していない可能性があります ² 三上さん、楽しみにしてますね (旺

化学部会の裏ボス

三上さん (三上 進一)

理学部化学科 博士三年

- 部会長を退いた後も、部会内では上皇的な存在⁴
- 部会きってのゲーマー
- Jamboardの字が1人だけやたら綺麗。流石FPSで培ったエイムは伊達ではない

⁴ ここで「院生による院政だ...」とか思った人はギャグセンスが中村と同レベルです。反省してください

おーい磯野！化学勉強しようぜ！！

中島くん (中島 優斗)

理学部化学科 修士一年

- 化学部会の良心、実は来年度から最年長
- 中島さん(スタッフ)との呼び分けが難しい時がある⁵
- なお、野球経験は無いらしい

⁵ 因みに普段の会話は、意外と文脈で何とかなる

『翠跳って、読めない？』

すいすい (三上 翠跳)

理学部化学科 学部四年

- 名前は「すいちょう」って読みます
- 本日は卒論執筆のためお休み。頑張ってる
- 実はめっちゃノリがいい。話せば分かる、心底いいやつ

⁶ ルンバパン、みずくタイプの水ケモン、周で洋筆が二倍になる特性「すいすい」の代表格(?)、キングドラよりは雰囲気は近そうだった

今シーズンの部会長⁷

千葉くん (千葉 湧太)

理学部化学科 学部四年

- 理学部の奨励賞を受賞する位優秀。流石や
- 本日は卒論執筆のためお休み。頑張ってる(二回目)
- ジャズオケでサクスを吹いている。音楽理論の話の振ると、特にノリノリで話してくれる

⁷ 因みに来シーズン以降の去就は不明とのこと。

という訳で...



2021年度後期セメスター活動報告会 卒業プレゼン

2022年2月16日（水）

ライティング部会

伊藤愛莉

2022.02.16 SLA後期活動報告会 卒業プレゼン ©Center for Learning Support(SLA Support) Tohoku university

「教えてくれてありがとうの気持ち」

×先輩（先生） ×しゃべりすぎ ×うえから
（一無から感謝へー）

◎「違う見え方」「前提を見直す機会」
「実践の機会」をもらっている。

→相手の話をもっと聞きたい、工夫したいという気持ちになり、自然と楽しい雰囲気に対応になる。

2022.02.16 SLA後期活動報告会 卒業プレゼン ©Center for Learning Support(SLA Support) Tohoku university

2

「SLAを利用する」

◆役割の異なるコミュニティとして

◆就職に向けて

→教えるだけにとどまらず、部会活動や報告、他領域の人との交流への積極的な参加をおすすめします！

SLAのますますの発展をお祈りしています
ありがとうございました！！

2022.02.16 SLA後期活動報告会 卒業プレゼン ©Center for Learning Support(SLA Support) Tohoku university

3

2021年度後期セメスター活動報告会
卒業プレゼンのようなもの

2022年2月16日

木村 藍貴

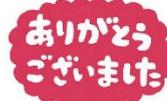
2022.02.16 SLA後期活動報告会 卒業プレゼン ©Center for Learning Support(SLA Support), Tohoku university

「来てくれた学生に感謝」

友だち以外の人に質問や相談をする
ってハードル高くないですか？(私だけ?)

だからこそ、SLAを訪ねてくれた学生に
「来てくれてありがとう！」
(仕事をくれてありがとう！)
の気持ちで対応していました。

学生の勇気に 敬意と感謝を。



1/1ページ

2022.02.16 SLA後期活動報告会 卒業プレゼン ©Center for Learning Support(SLA Support), Tohoku university

資料：2021年度発行ポスター

Tohoku University Student Learning Adviser

SLAでは、授業の質問だけでなく…
「学部・学科の話が聞きたい」
「進路や研究室の相談がしたい」
 といった利用も大歓迎です!!

SLAにはいろんな学部・研究科に
在籍する先輩がいるよ!

「同じ学部・学科の先輩と話したい」という方は、
M棟1階のSLAサポート窓口気軽に声をかけてください!

<科目に関する利用・相談は下記からどうぞ。利用日に案内メールが届きます!>
 物理/数学/化学 英会話/ライティング

東北大学学習支援センター 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F
<http://sls.cis.iwa.tohoku.ac.jp> = sls-support@gr.jp.tohoku.ac.jp

▲1) 前期利用案内 (全体)

Tohoku University Student Learning Adviser

SLAにはどんな質問がくるの?
 ハイ、こんな方の利用が多くあります。

理系科目
 授業でよく理解できない部分…
 演習問題が解けない/計算が合わない
 自主学習をしていて、理解できないところを教えて欲しい
 進路の相談をしたい (主に理・工学部)

英会話
 英会話が苦手なので、継続的に通って力をつけたい
 英語で楽しく会話やゲームをしたい
 授業で行うプレゼンの準備や練習をしたい
 留学やTOEFL・英検などの対策をしたい

ライティング
 レポートを書いてみたので、これでよいのか見て欲しい
 言いたいことをうまく整理できないので、一緒に考えて欲しい
 大学のレポートで気をつけたいこと何ですか?

他人の目が入るとレポートは絶的によくなります。
 とりあえず一度利用してみてください!

＜利用方法＞予約サイトから希望サポートを選んで入力！利用日に案内メールが届きます！
 物理/数学/化学 <https://sls-science.edisone.jp/> 英会話/ライティング <https://sls-support.edisone.jp/>

東北大学学習支援センター 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F
<http://sls.cis.iwa.tohoku.ac.jp> = sls-support@gr.jp.tohoku.ac.jp

▲2) 前期利用案内 (全体)

Tohoku University Student Learning Adviser

SLAがあなたの**学び**をサポートします。

ϵ - δ 論法で
つまずいていませんか？
もうちょっとしっかりと
理解したくないですか？

「あなたの？」が
「ー」になる。
その瞬間に立ち会います。

予約サイトへアクセス!
 物理/数学/化学
<https://sls-science.edisone.jp/>

利用案内メールが届きます!

わたしたちと一緒に
考えてみませんか?

MATHEMATICS

SLAとは3年生以上の学習支援スタッフです。
 東北大学独自の、他大にはなかなかない手厚いサポート。ぜひ使い倒してください!

東北大学学習支援センター 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F
<http://sls.cis.iwa.tohoku.ac.jp> = sls-support@gr.jp.tohoku.ac.jp

▲3) 前期利用案内 (数学)

Tohoku University Student Learning Adviser

SLAがあなたの**学び**をサポートします。

「化学A」
一体どこが化学なの？
と、思っているあなたへ。

「あなたの？」が
「ー」になる。
その瞬間に立ち会います。

予約サイトへアクセス!
 物理/数学/化学
<https://sls-science.edisone.jp/>

利用案内メールが届きます!

わたしたちと一緒に
考えてみませんか?

CHEMISTRY

SLAとは3年生以上の学習支援スタッフです。
 東北大学独自の、他大にはなかなかない手厚いサポート。ぜひ使い倒してください!

東北大学学習支援センター 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F
<http://sls.cis.iwa.tohoku.ac.jp> = sls-support@gr.jp.tohoku.ac.jp

▲4) 前期利用案内 (化学)

Tohoku University Student Learning Adviser

SLAがあなたの**学び**をサポートします。

**物理や数物の理解が
追い付きません！
どうしたらいいですかっ！**

あなたの「？」が
「！」になる。
その瞬間に立ち会います。

予約サイトへアクセス！
物理/数学/化学
<https://sla-science.edisone.jp/>



利用案内メールが届きます！

わたしたちと一緒に
考えてみませんか？



PHYSICS

SLAとは3年生以上の学習支援スタッフです。
東北大学独自の、他大にはなかなか手厚いサポート。ぜひ使い倒してください！

東北大学学習支援センター 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F
<http://sla.cis.ihe.tohoku.ac.jp> = sla-support@grp.tohoku.ac.jp

▲5) 前期利用案内(物理)

**いちねんせいになったら
いちねんせいになったら
百マス積分 できるかな**

理系科目の対応時間 45分です。

*Together we learn.
together we glow.*



SLA理系科目サポート

物理・数学・化学などの学習に関する質問を受け付けます。
利用の予約はこちらから ➡ <https://sla-science.edisone.jp/>



▲6) 前期利用案内(理系)

**口笛はなぜ
遠くまで聞こえるの
レポートの締切はなぜ
私を待ってくれないの**

ライティングサポートの対応時間 45分です。

*Together we learn.
together we glow.*



SLAライティングサポート

レポートや論文をはじめとした文章の書き方を幅広く支援します。

利用の予約はこちらから ➡ <https://sla-support.edisone.jp/>



▲7) 前期利用案内(ライティング)

Tohoku University Student Learning Adviser

**いま、わたしの
願い事が
かなうならば
先輩の話が聞きたい**

*Together we learn.
together we glow.*



SLAとは、3年生以上の先輩で構成される学習支援スタッフ。
全学教育を学ぶ1・2年生の学びの中心に、サポートを行っています。
HPでは学習のヒント、イベント情報などを掲載しています！



最新の子供状況や、学びに役立つ情報も発信中！ @sla_tomosodachi

東北大学学習支援センター 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F
<http://sla.cis.ihe.tohoku.ac.jp> = sla-support@grp.tohoku.ac.jp

▲8) 前期利用案内(新入生)

大学生になっけど、大学の学びって、どういふものなのかな？

そんなことを考えたこともなかった！

他の学部の人と話してみたい

SLA主催 新入生歓迎企画

かんがえるソファ

Zoom開催！

テーマと日程

5/14(金) 16:30~18:00
高校の部活と大学のサークルってどう違う？

5/17(月) 16:30~18:00
高校までの勉強って、何のためにあったんだろう？

5/19(水) 16:30~18:00
大学で得られるものって何だろう？

5/25(火) 16:30~18:00
大学4年生のとき、私たちは何をしていると思う？

5/28(金) 16:30~18:00
オンラインで友達は何を作るか？

定員 各回5名まで(先着順)

参加方法
右のQRコードの申込フォームに入力
①メールで送られてきたZoomURLから参加

SLAって？
SLA(Student Learning Adviser)とは、東北大学における学生による学生のための学習支援スタッフのことです。
学生同士が「学び」をコンセプトに学部3年生~大学院生の幅広い層の先輩学生がSLAとして全学域を回る学部1~2年生の学習サポートを行っています！

今回は**雑談会**も組み込んだイベント！
①4月25日(水)の夜に「先輩と後輩の雑談会」を開催しました。参加者から好評でした。先輩SLAの経験がまたたく間に交流できる時間です。

東北大学学習支援センター (SLAサポート)
☎ 022(795)3374 <http://sla.cis.ihe.tohoku.ac.jp>
✉ sla-support@grp.tohoku.ac.jp

ともぞ学ぼう、ともぞ育とう、ともぞだち Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲9) かんがえるソファ(5月)

SLA主催

かんがえるソファ

Zoom開催！

「ギモンの雨を降らせよう」

かんがえるソファとは？
かんがえるソファとは、誰でも一度は感じたことのある疑問や普段はあまり考えないけど身近な問いについて学生同士で話してみようというイベントです。
みんなのアイデアを聞いてみたい、友達を作りたい、自分の考えを表現する練習をしてみたい、なんだか面白そう...キッカケはなんでもOK、人と離れているからこそ互いの学生の考えに触れ、新しい考え方を探してみませんか？

テーマと日程 ※特別日は16:30~18:00 ※各回の定員は5名まで(先着順)

6/4(金) 「寝起き」ってどういうこと？
6/8(火) 「焦る」ってどういうこと？
6/23(水) 「環境」ってなんだろう？

参加方法
①右のQRコードの申込フォームに入力
②メールで送られてきたZoomURLから参加！

SLAって？
SLA(Student Learning Adviser)とは、東北大学における学生による学生のための学習支援スタッフのことです。
「学生同士の学び合い」をコンセプトに学部3年生~大学院生の幅広い層の先輩学生がSLAとして全学域を回る学部1~2年生の学習サポートを行っています！

東北大学学習支援センター (SLAサポート)
☎ 022(795)3374 <http://sla.cis.ihe.tohoku.ac.jp>
✉ sla-support@grp.tohoku.ac.jp

ともぞ学ぼう、ともぞ育とう、ともぞだち Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲10) かんがえるソファ(6月)

Tohoku University Student Learning Adviser

SLAがあなたの**学び**をサポート!

授業がだんだんわからなくなってきた...
レポートを書いたけどこれで良いか見て欲しい!
英会話が苦手なので力をつけるために...
ライティングが苦手なので力をつけるために...

6月の予定	月	火	水	木	金
4講時	物理	物理	物理	物理	物理
5	数学	数学	数学	数学	数学
	化学	化学		化学	化学
5講時	ライティング		ライティング		ライティング
6講時	英会話	英会話	英会話	英会話	英会話

事前に**Web予約**または**直接SLAサポート室窓口**におこしください！

< 利用方法 > 予約サイトから希望するサポートを選んで入力・利用日に案内メールが届きます。

物理/数学/化学 <https://sla-science.edsone.jp/>

英会話/ライティング <https://sla-support.edsone.jp/>

東北大学学習支援センター 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F
<http://sla.cis.ihe.tohoku.ac.jp> = sla-support@grp.tohoku.ac.jp

▲11) 前期利用案内(6月)

Tohoku University Student Learning Adviser

SLAがあなたの**学び**をサポート!

授業がだんだんわからなくなってきた...
レポートを書いたけどこれで良いのかな？
英会話が苦手なので力をつけるために...
ライティングが苦手なので力をつけるために...

7・8月の予定	月	火	水	木	金
13:40~			ライティング		
14:40~	物理	数学	物理	物理	ライティング
15:40~	物理	化学	英会話	物理	化学
16:40~	物理	化学	英会話	物理	化学
17:40~	物理	化学	英会話	物理	化学

キヤンペーンしている部分は印刷の予約にチェックしてください！

SLA前期の活動は8/3(火)までです。

事前に**Web予約**または**直接SLAサポート室窓口**におこしください！

< 利用方法 > 予約サイトから希望するサポートを選んで入力・利用日に案内メールが届きます。

物理/数学/化学 <https://sla-science.edsone.jp/>

英会話/ライティング <https://sla-support.edsone.jp/>

東北大学学習支援センター 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F
<http://sla.cis.ihe.tohoku.ac.jp> = sla-support@grp.tohoku.ac.jp

▲12) 前期利用案内(7月)

資料

Tohoku University Student Learning Adviser

後期のSLAは 10月11日(月)開始です。

それまでの間は、SLAのサイトをお楽しみください!

SLAによる
宮城・仙台案内

- 宮城・仙台ゆかりの小説・漫画
- 宮城・仙台ゆかりの映画
- IMONI-Partyをしよう!
- 宮城・仙台の方言

学びのヒント by SLA

- 数学推薦図書2021
- 惑星研究のすすめ
- よく分かる共鳴<有機化学>
- 英語学習にオススメの動画集!!

学習に役立つ情報を発信中! @sla_tomosodachi

東北大学学習支援センター | 川内北キャンパス | マルチメディア教育研究棟1F
http://sla.cis.me.tohoku.ac.jp | sla-support@grp.tohoku.ac.jp

▲13) 後期利用案内

Tohoku University Student Learning Adviser

後期のSLAは 10月11日(月)開始です。

前期利用者の声をお届けします。

証明の最中も私の反応を見て、補足や繰り返し説明をして下さって分かりやすかったです。また利用しています。(物理)

分かりやすく教えて下さり、分かるまで繰り返し見て下さったので、今後このような問題を解くときに自分で対処することができそうです。(物理)

相談しやすい雰囲気、とても楽しかったです。私的の外的な意見にも、真実に考えて下さって、本当にありがとうございました。(化学)

パーセント濃度を求める初歩的な所から実験内容の込み入った質問まで、詳しく説明して下さい、理解が深まったと感じました。(白科経)

本来できているはずのところが理解できていないことは恥ずかしいですが、そのように感じさせないような親切さのおかげで問題に向き合うことができました。(数学)

実際に対話してみると、何となくもやもやしていた疑問点が解消されました。様々な豆知識も教えていただいて、参考になりました。(ライティング)

客観的に自分のレポートを見ることでできていないことに気づきました。客観的に捉え直すことができて、とても良かったです。(ライティング)

会話の中で分からない箇所を気軽に聞け、その都度とても丁寧に解説してくれました。英語学習へのモチベーションが上がった瞬間でした。(英会話)

英語の聞き方について自分の通すべき箇所を的確にアドバイスしてもらえました。勉強の方向がたつた感じがしました。(英会話)

学習に役立つ情報を発信中! @sla_tomosodachi

東北大学学習支援センター | 川内北キャンパス | マルチメディア教育研究棟1F
http://sla.cis.me.tohoku.ac.jp | sla-support@grp.tohoku.ac.jp

▲14) 後期利用案内

Tohoku University Student Learning Adviser

後期のSLAは 10月11日(月)開始です。

物理 / 数学 / 化学
英会話 / ライティング

「授業がわからない」
「もっと深いところまで理解したい」
「英語力を鍛えたい」

学びに役立つ情報を発信中! @sla_tomosodachi

東北大学学習支援センター | 川内北キャンパス | マルチメディア教育研究棟1F
http://sla.cis.me.tohoku.ac.jp | sla-support@grp.tohoku.ac.jp

▲15) 後期利用案内

SLA主催 10月

かんがえるソファ

Zoom開催!

かんがえるソファとは、誰でも一度は考えたことのある疑問や悩みはあまり考えないけど最近を悩んでいる学生同士で話し合ってみようというイベントです。

色んな人のアイデアを聞いてみたい、意見を言いたい、自分の考えを表現する練習をしてみたい、なんでもかき出そう...キッカケはなんでもOK、人と話しているからこそのまわりの学生の考えに触れ、新しい考え方を探してみませんか?

テーマと日程 ★時差等は16:20~17:40

10/27(木)「コミュニケーション?」

各回の定員は5名までとなっております。

参加方法
①右上のQRコードの申込フォームに記入
②メールで送られてきたZoomURLから参加!

SLAって?
SLA (Student Learning Adviser)とは、東北大学における学生による学生のための学習支援スタッフのことです。
「学生同士の学びあい」をコンセプトに、学部3年生~大学院生の幅広い層の先輩学生がSLAとして全学教育を受ける学部1~2年生の学習サポートを行っています!

東北大学学習支援センター (SLAサポート)
住所: 川内北キャンパスマルチメディア教育研究棟1F
メール: sla_support@grp.tohoku.ac.jp

Zoom参加方法
@sla_event
Zoom参加方法
@sla_tomosodachi

▲16) かんがえるソファ(10月)

Tohoku University Student Learning Adviser

そうだ SLA、 行こう

試験前は混みあいますので
早めのご利用をおすすめします。

質問・相談受付中!

理系科目 (物理・数学・化学)

- ・対面での学習支援を行っています
- ・予約不要! M棟1階SLAサポート窓口へ
- ・受付時間: 月・水・木・金 14:30-17:20 (最終受付16:50)

東北大学学習支援センター(川内北キャンパス)マルチメディア教育研究棟1F
<http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp> sla-support@grp.tohoku.ac.jp
 学習に役立つ情報を発信中! @sla_tomosodachi

▲17) 後期利用案内

11月

かんがえるソファ

SLA 主催
対面開催!

※希望? 参加できるとなっております

かんがえるソファとは?

かんがえるソファとは、誰かし一度は感下たことのある疑問や質問はあまり考えないけど身近な問題について学生同士で話し合ってみようというイベントです。

みんなのアイデアを聞いてみたい、友達を作りたい、自分の考えを表現する機会をしてみたい、なんでも面白そう... キックオフはなんでもOK、人と離れている今だからこそまわりの学生の考えに触れ、新しい考え方を探してみませんか?

テーマと日程 ★特開室は16:20~17:40

11/6(火)「主体性って何だろう」 @SLA ラウンジ (M棟1F)
 11/24(水)「書かなくて何だろう」 @M303 (M棟3Fの教室)
 11/29(月)「成長って何だろう」 @M303 (M棟3Fの教室)

SLAって?

SLA (Student Learning Adviser) とは、東北大学における学生による学生のための学習支援スタッフのことです。1年生以上の学生が、各コンソートに所属する学生へ大先輩の顔ぶれの先輩学生がSLAとして全学教育を受ける学部・1年生の学習サポートを任めています!

参加方法

①以上のQRコードの申込フォームに記入
 ②各回の開催場所へ行き、顔回等を読みませればOK!

東北大学学習支援センター (SLA サポート)
 住所: 川内北キャンパスマルチメディア教育研究棟1F
[mail:sla-support@grp.tohoku.ac.jp](mailto:sla-support@grp.tohoku.ac.jp)
[Twitter: @sla_tomosodachi](https://twitter.com/sla_tomosodachi) #Printto://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp/

▲18) かんがえるソファ(11月)

Tohoku University Student Learning Adviser

磯野! SLA行こうぜ!



質問・相談受付中!
理系科目 (物理・数学・化学)
 ・対面での学習支援を行っています
 ・予約不要! M棟1階SLAサポート窓口へ
 ・受付時間: 月・水・木・金 14:30-17:20 (最終受付16:50)

※SLAには二人のナカソマがいます。

東北大学学習支援センター(川内北キャンパス)マルチメディア教育研究棟1F
<http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp> sla-support@grp.tohoku.ac.jp
 学習に役立つ情報を発信中! @sla_tomosodachi

▲19) 後期利用促進

Tohoku University Student Learning Adviser

ウワサだけど、 隣のあの子はもう 利用してるらしいよ。



質問・相談
受付中!

理系科目 (物理・数学・化学)
 ・対面での学習支援を行っています。月・水・木・金 14:30-17:20 (最終受付16:50)
 ・予約不要! M棟1階SLAサポート窓口へ

東北大学学習支援センター(川内北キャンパス)マルチメディア教育研究棟1F
<http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp> sla-support@grp.tohoku.ac.jp
 学習に役立つ情報を発信中! @sla_tomosodachi

▲20) 後期利用促進

12月

かながえるソファ

SLA 主催

対面開催!

テーマと日程 **★開催日は12/20～27/10**

12/20(水)「普通ってどういうこと？」 12/24(月)2Fの教室
 12/26(水)「考えって何だろう？」 12/29(月)2Fの教室

★入校説明:各都庁まで

かながえるソファとは?

かながえるソファとは、誰でも一度は感じることのある疑問や疑問はあまり考えないけど是非疑問について学生同士で話してみたいイベントです。

みんなのアイデアを聞いてみたい、友達を作りたい、自分の考えを表現する練習をしてみたい、なんでもかまわない...キッカケはなんでもOK。
 人と話している中だからこそまわりの学生の考えに触れ、新しい考え方を探してみませんか?

参加方法

①以上のQRコードの申込フォームに入力
 ②各都の開催場所へ行き、申込書を送りつけば
 参加OK!

SLAって?

SLA (Student Learning Adviser) とは、東北大学における学生による学生のための学習支援スタッフのことです。
 「学生同士の助けあい」をコンセプトに、学部3年生～大学院生の幅広い層の先輩学生がSLAとして学習支援を受ける学部1・2年生の学習サポートを行っています!

東北大学学習支援センター (SLAサポート)
 住所: 川内キャンパスメディアエデュケーション棟1F
 mail: sla-support@grp.tohoku.ac.jp
 twitter: @slatosodachi

http://sla.dsl.tohoku.ac.jp/

▲21) かがえるソファ(12月)

東北大学学習支援センター
SLA英会話 presents

END-OF-YEAR 英会話 CAFE

川内SLA Loungeを再現したバーチャル空間に集まり
ゲームや英会話をしながら、年の瀬を祝いましょう!

22 DEC 2021 @ VIRTUAL SLA LOUNGE
18:00 - 19:30 created in Gather Town

▶SIGN UP HERE

参加応募Google form:
<https://onl.tw/Lu3mj7B>
 QRコードからもアクセスして頂けます→

※参加費無料
 ※応募締め切り12月22日
 ※応募頂いた後に参加方法をご案内いたします

東北大学学習支援センター Email: sla-support@grp.tohoku.ac.jp
 SLA英会話Twitter: @SLAenglish

▲22) END-OF-YEAR 英会話 CAFE

第2回かながえるソファ+ (プラス)

新型コロナのこれから—ワクチン接種の着地点とは—

かながえるソファとは?

かながえるソファとは、誰でも一度は感じることのある疑問や疑問はあまり考えないけど是非疑問について学生同士で話してみたいイベントです。

かながえるソファ+とは?

社会問題に接する「当たり前」に向かい自由に語り合うことで、その分野についての様々な考え方や考え方を深めていく「かながえるソファ+ (プラス)」。

①テーマの今回は、ワクチン(12/23)の接種開始が、幸いでも規制緩和を促し、これから新型コロナの感染を減らすことにはかなり効果的だと言われています。
 ②段々コロナ禍が落ち着いていくのをどう感じていますか?

みんなにはおすすめ

①新型コロナワクチン接種への不安を解消したい方
 ②社会問題について自由に意見を交わりたい方
 ③3回目接種が始まる中、コロナ問題の不安を解消したい方と一緒に考えませんか?

開催日時 12月20日(月)16:20-17:40
 開催場所 M204(1階2Fの教室)
 定員 2名

参加方法

①上記QRコードの申込フォームに入力
 ②M204へ行き、申込書を送りつけば参加OK!

SLAって?

SLA (Student Learning Adviser) とは、東北大学における学生による学生のための学習支援スタッフのことです。
 「学生同士の助けあい」をコンセプトに、学部3年生～大学院生の幅広い層の先輩学生がSLAとして学習支援を受ける学部1・2年生の学習サポートを行っています!

東北大学学習支援センター (SLAサポート)
 住所: 川内キャンパスメディアエデュケーション棟1F
 メール: sla-support@grp.tohoku.ac.jp

学習支援センター @slatosodachi

▲23) かがえるソファ+(12月)

Tohoku University Student Learning Adviser

そうだ、SLA 行こう

年内は12/23(木)まで
 年始は1/6(木)再開

質問・相談受付中!

理系科目 (物理・数学・化学)

- ・対面での学習支援を行っています
- ・予約不要! M棟1階 SLAサポート窓口へ
- ・受付時間: 月・水・木・金 14:30-17:20 (最終受付16:50)

東北大学学習支援センター(川内北キャンパス)マルチメディア教育研究棟1F
<http://sla.dsl.tohoku.ac.jp> # sla-support@grp.tohoku.ac.jp
 学園に役立つ情報を発信中! @slatosodachi

▲24) 年末年始お知らせ

Tohoku University Student Learning Adviser

そうだ、SLA行こう

年内は12/23(木)まで
年始は1/6(木)再開

質問・相談受付中!
理系科目 (物理・数学・化学)
・対面での学習支援を行っています
・予約不要! M棟1階 SLAサポート窓口へ
・受付時間: 月・水・木・金 14:30-17:20 (最終受付16:50)

東北大学学習支援センター(川内北キャンパス)マルチメディア教育研究棟1F
http://sla.cis.ihe.tohoku.ac.jp #sla-support@grp.tohoku.ac.jp
学習に役立つ情報を発信中! @sla_tomosodachi

▲25) 年末年始のお知らせ

Tohoku University Student Learning Adviser

1月
かんがえるソファ

SLA 主催
対面開催!

申し込みフォームはこちら

テーマと日程 *…参加者がファシリテーターをできる回

1/6(水) 15:20~17:40	「アイドルについてかんがえる」	@M203 (M棟 2F 教室)
★ 1/12(水) 15:20~17:40	「歳するってなんだろう」	@M303 (M棟 3F 教室)
★ 1/18(水) 15:20~17:40	「嘘についてかんがえる」	@SLA ラウンジ (M棟 1F)

かんがえるソファとは?
かんがえるソファとは、強でモー一度は感じたことのある疑問や事項はあまり考えないけど身近な問題について学生同士で話してみるイベントです。

他人の人のアイデアを聞いてみたい、意見を言いたい、自分の考えを表現する練習をしてみたい、なんでもかまわない。キリがないならOK。人の話を聞いてみるからとそまわりの学生の考えに触れ、新しい考え方を探してみませんか?

参加方法
①上記のQRコードの申込ページに入力
②申込の開催場所へ行き、検印字を済ませれば準備OK。

SLAって?
SLA (Student Learning Adviser)とは、東北大学に在籍する学生による学生のための学習支援スタッフのことです。
「学生同士の学びあい」をコンセプトに学部3年生へ大学院生の幅広い層の先輩学生がSLAとして全学教育を支援する部・2年生の学習サポートを行っています。

東北大学学習支援センター (SLA サポート)
住所: 川内北キャンパスマルチメディア教育研究棟1F
mail: sla-support@grp.tohoku.ac.jp
Twitter: @sla_tomosodachi
HP: http://sla.cis.ihe.tohoku.ac.jp/

▲26) かんがえるソファ(1月)

Tohoku University Student Learning Adviser

SLA理系科目 (物理・数学・化学) オンラインで対応中!



予約サイトへアクセス!
<https://sla-science.edisone.jp/>



利用当日お昼過ぎにご案内メールを送ります。

東北大学学習支援センター(川内北キャンパス)マルチメディア教育研究棟1F
http://sla.cis.ihe.tohoku.ac.jp #sla-support@grp.tohoku.ac.jp
学習に役立つ情報を発信中! @sla_tomosodachi

▲27) オンライン対応開始案内

Tohoku University Student Learning Adviser

SLA理系科目 (物理・数学・化学) オンラインで対応中!



予約サイトへアクセス!
<https://sla-science.edisone.jp/>



利用当日お昼過ぎにご案内メールを送ります。

東北大学学習支援センター(川内北キャンパス)マルチメディア教育研究棟1F
http://sla.cis.ihe.tohoku.ac.jp #sla-support@grp.tohoku.ac.jp
学習に役立つ情報を発信中! @sla_tomosodachi

▲28) オンライン対応開始案内

Tohoku University Student Learning Adviser

2022年4月活动開始

SLA募集

SLAは「学生による学生のための学習支援スタッフ」です。
一緒に全学教育（主に1・2年生）の学びをサポートしてくれる仲間を募集します！

◆募集枠
数学 化学 ライティング 英会話 日本語会話 企画
※特選枠1名-数名募集。特選枠については3名以上募集
※ライティング担当は修士以上の学生に限り募集。

詳しい募集要項はこちら



◆応募・採用の流れ

- 活動説明会へのエントリー：1/31(月)16:00am 締め切り
このQRコードにアクセスし、エントリーしてください。
後日、活動説明会の開催を連絡いたします。
<https://forms.gle/1zGj0q5VFxMp5ACU8>
- 活動説明会への参加：1月末から2月4日頃
SLAの活動内容や、面接・試験について説明を行います。
説明会を踏まえ、応募するかどうかをお考えください。
- 面接・試験：2月10日~25日頃
説明会の内容を踏まえ、正式に応募いただいた方に対して
後日実施。計1.5時間程度。内容は各自ご自身でご確認ください。
- 採否結果の通知：3月4日

◆問い合わせ先
mail: sla-support@grp.tohoku.ac.jp
web: <http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp>

東北大学学習支援センター(川内北キャンパス) マルチメディア教育研究棟 1F
<http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp> # sla-support@grp.tohoku.ac.jp
✉ 学割に役立つ情報を発信中！ @sla_tomosodachi

▲29) SLA 募集案内

Tohoku University Student Learning Adviser

SLA 英会話・日本語会話 春休みスケジュール

2/10 【英会話】 【日本語】
Thu. ・1on1セッション ・1on1セッション
・日本語ワークショップ (14:15)
・文化カフェ (15:00)

2/15 【英会話】 【日本語】
Tue. ・1on1セッション ・1on1セッション

2/17 【英会話】
Thu. ・1on1セッション

2/21 【英会話】 【日本語】
Mon. ・1on1セッション ・1on1セッション
・日本語ワークショップ (16:00)

1on1開始時刻
1 枠目: 14:15 2 枠目: 15:00 3 枠目: 15:45

1on1セッションの
予約はこちら！

日本語会話イベントの
申し込みはこちら！

文化カフェ ワークショップ





東北大学学習支援センター(川内北キャンパス) マルチメディア教育研究棟 1F
<http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp> # sla-support@grp.tohoku.ac.jp

▲30) 春休み延長対応案内

＝編集後記＝

『学習支援センター（SLA サポート）年次活動報告書』第8号も、ようやく刊行の運びとなりました。2021年度は、前年より続く新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、あらゆる状況・あらゆる場面で制限と変革を迫られてきました。当センターの学習支援活動においては、オンラインという手段を単なる「暫定的な対面支援の代替」としてではなく、新たな可能性を拡張し得るものと捉え、挑戦を続けてまいりました。

そして2021年度は、私たちの日常生活の中にあつた「当たり前」が大きく覆された2020年度を振り返りつつも、未来に向けて、改めて「大学における学習支援とはどうあるべきか」を熟考する契機を得た年にもなりました。相談窓口を開設し1対1で丁寧に学生の学習相談に応じていく形がいかに重要であるかを再確認すると同時に、そこにどのような限界があるのかについても考えさせられました。様々な情報科学技術やAIが発展する中であって、未来に向けた学習支援とはどうあるべきか、私たちは何のために、そして誰のために学習支援を行っているのかを問われたように感じています。

まだまだ、十分な挑戦と成果を成し得たとは言い難いですが、当センターの目指す「ともそだち」の理念の重要性と普遍性を実感として確認できた面もありました。大きな挑戦の中で、SLAたちそれぞれがアイディアを出し合いながら、協働してセンターの活動を支えてくれました。そして、そのようなSLAたちの能力を存分に発揮できる環境醸成とマネジメントへの責任を痛感した一年でもありました。

2021年度も、学内外の多くの皆様に支えられてセンターの活動が遂行できました。また、何よりもSLAとして活動してくれている多くの学生たちと、センターの運営を支えてくれたスタッフのおかげにより、充実した学習支援活動ができました。末筆となりましたが、関係者の皆様に感謝をお伝えすると共に、引き続き、ご支援・ご協力の程、宜しくお願い致します。

(佐藤 智子)

学習支援センター(SLA サポート)年次活動報告書 ー2021年度ー
Annual Report 2021 / Center for Learning Support (SLA Support Office)

2023年3月25日発行
東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター(SLA サポート)
〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内41番地 マルチメディア教育研究棟1F
website : <http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp/>

印刷 北日本印刷株式会社

※SLA学生の各種作成物の情報は、学生個人の見解によるものも含まれることをあらかじめご了承ください。

※本冊子掲載の写真データの無断使用を固く禁じます。
